

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

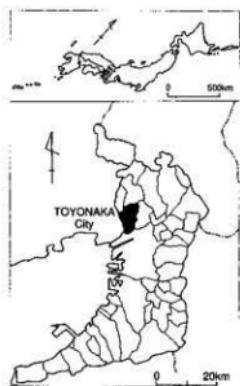
平成19年度(2007年度)

平成20年(2008年)3月

豊中市教育委員会

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 19 年度 (2007 年度)



平成 20 年 (2008 年) 3 月

豊中市教育委員会

## 序 文

豊中市は大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県に接しています。県境を流れる猪名川から常に豊かな水がもたらされ、北方の千里丘陵にかつて広大な森林をひかえたこの地では、古くから人々の生活の場が育まれ、多くの歴史的遺産を受け継いできました。一方、商都大阪に隣接する関係などから、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。しかし、近年では開発の勢いが落ちてきただけの、土地利用の形態が変化してきたことを受けて小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性をふまえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。本書は、平成19年度に調査を実施した小曾根遺跡、豊島北遺跡、本町遺跡、穂積遺跡、桜塚古墳群、および各遺跡における確認調査に加え、平成18年度後期に調査を実施した原田遺跡、および各遺跡における確認調査の成果も合わせて掲載しました。原田城跡（北城）主郭内で実施した原田遺跡では、城跡関連の遺構が確認され、豊島北遺跡では遺跡の範囲拡大の契機となり、本町遺跡では古墳時代の住居跡が密集した状態で発見されるなど、各遺跡で新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、わたしたち現代に暮らす人間にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来形成のために役立つことを願ってやみません。

調査の実施にあたっては、土地所有者、工事関係者、近隣の住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。また文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。

平成20年(2008年)3月31日

豊中市教育委員会  
教育長 山元行博

## 例　　言

1. 本書は、平成19年度国庫補助事業（総額7,000,000円、国庫50%、市費50%）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また、平成18年度国庫補助事業として実施した原田遺跡第9次調査の成果を併せて収録するものである。
2. 平成19年度事業として、平成19年4月5日から平成20年3月31日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
3. 発掘調査は、本市教育委員会地域教育振興課文化財保護係が実施した。
4. 本書の作成にあたり、各章の執筆は各調査担当者が実施した。また、第Ⅳ章は各調査担当者の見解をもとに、浅田が執筆した。  
なお、全体の編集を陣内が行なった。
5. 各押印に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは真北を、また表記のないものは、略北を示す。
6. 掲図・本文中の土色表記の基準は、『新版標準上色帖 1994年版』に基づく。
7. 掲図に掲載した出土遺物の縮尺は原則として1:4、または1:3とする。
8. 各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただいた。併せてここに明記し、深謝いたします。

平成18年度（平成19年1月以降）発掘調査一覧

| 遺跡名  | 次数  | 調査地          | 調査面積             | 担当者  | 調査期間                    |
|------|-----|--------------|------------------|------|-------------------------|
| 原田遺跡 | 第9次 | 曾根西町4丁目21-7他 | 15m <sup>2</sup> | 橋田正徳 | 2007年2月1日<br>～2007年3月2日 |

平成19年度発掘調査一覧

| 遺跡名   | 次数   | 調査地              | 調査面積                | 担当者  | 調査期間                       |
|-------|------|------------------|---------------------|------|----------------------------|
| 小曾根遺跡 | 第28次 | 北条町1丁目297-6      | 28m <sup>2</sup>    | 陣内高志 | 2007年5月22日<br>～2007年6月22日  |
| 豊島北遺跡 | 第4次  | 曾根東町5丁目82-1      | 261.3m <sup>2</sup> | 橋田正徳 | 2007年6月7日<br>～2007年7月31日   |
| 本町遺跡  | 第34次 | 本町2丁目14-1        | 62.0m <sup>2</sup>  | 清水 篤 | 2007年7月23日<br>～2007年8月18日  |
| 穂積遺跡  | 第36次 | 服部元町1丁目118,118-2 | 250m <sup>2</sup>   | 橋田正徳 | 2007年8月27日<br>～2007年10月23日 |
| 桜塚古墳群 | 第10次 | 曾根東町1丁目66-3      | 9.0m <sup>2</sup>   | 清水 篤 | 2007年9月10日<br>～2007年9月14日  |

# 目 次

|                 |      |
|-----------------|------|
| 第Ⅰ章 位置と環境       | (陣内) |
| 1. 地理的環境        | 1    |
| 2. 歴史的環境        | 1    |
| 第Ⅱ章 原田遺跡第9次調査   | (橋田) |
| 1. 調査の経緯        | 5    |
| 2. 調査の概要        | 5    |
| (1) 基本層序        | 5    |
| (2) 第1トレンチの様相   | 10   |
| (3) 第2トレンチの様相   | 13   |
| 3. まとめ          | 14   |
| 第Ⅲ章 小曾根遺跡第28次調査 | (陣内) |
| 1. 調査の経緯        | 15   |
| 2. 調査の概要        | 15   |
| (1) 遺跡の概要       | 15   |
| (2) 基本層序        | 17   |
| (3) 検出した遺構      | 17   |
| (4) 出土遺物        | 17   |
| 3. まとめ          | 18   |
| 第Ⅳ章 豊島北遺跡第4次調査  | (橋山) |
| 1. 調査の経緯        | 19   |
| 2. 調査の概要        | 20   |
| (1) 基本層序        | 20   |
| (2) 検出した遺構と遺物   | 24   |
| 3. まとめ          | 35   |
| 第Ⅴ章 本町遺跡第34次調査  | (清水) |
| 1. 調査の経緯        | 37   |
| 2. 調査の概要        | 39   |
| (1) 基本層序        | 39   |
| (2) 検出した遺構と遺物   | 39   |
| 3. まとめ          | 40   |
| 第Ⅵ章 稲積遺跡第36次調査  | (橋田) |
| 1. 調査の経緯        | 41   |
| 2. 調査の概要        | 45   |
| (1) 基本層序        | 45   |
| (2) 西部建物群の様相    | 45   |
| (3) 東部建物群の様相    | 49   |
| 3. まとめ          | 52   |
| 第Ⅶ章 桜塚古墳群第10次調査 | (清水) |
| 1. 調査の経緯        | 55   |
| 2. 調査の概要        | 56   |
| 第Ⅷ章 確認調査の成果     | (浅田) |
| 確認調査の概要         | 57   |

## 挿図・表目次

### (第Ⅰ章 位置と環境)

|                |   |
|----------------|---|
| 第1図 市内遺跡分布図    | 2 |
| 第2図 調査地点と周辺の地形 | 4 |

### (第Ⅱ章 原田遺跡第9次調査)

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 第3図 調査地位置図 (1:5,000)          | 5  |
| 第4図 トレンチ位置図 (1:400)           | 6  |
| 第5図 第1トレンチ壁面断面・1-2層平面図 (1:40) | 7  |
| 第6図 第1トレンチ壁面土層注記              | 8  |
| 第7図 2、3-1・2・4層平面図 (1:40)      | 9  |
| 第8図 3-5、4層平面図 (1:40)          | 10 |
| 第9図 土坑2平面図 (1:10)             | 11 |
| 第10図 第1トレンチ出土上遺物 (1:3)        | 12 |
| 第11図 第2トレンチ平面・断面図 (1:40)      | 13 |

### (第Ⅲ章 小曾根遺跡第28次調査)

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 第12図 調査範囲図 (1:200)    | 15 |
| 第13図 調査地位置図 (1:5,000) | 15 |
| 第14図 調査区平面・断面図 (1:40) | 16 |
| 第15図 出土遺物 (1:4)       | 18 |

### (第Ⅳ章 豊島北遺跡第4次)

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| 第16図 調査範囲図 (1:200)        | 19    |
| 第17図 調査地位置図 (1:5,000)     | 19    |
| 第18図 包含層出土上遺物図 (1:3)      | 20    |
| 第19図 調査区平面・断面図 (1:100)    | 21~22 |
| 第20図 建物1平面・断面図 (1:40)     | 23    |
| 第21図 土坑2・6断面図 (1:15)      | 24    |
| 第22図 上坑2・6出土遺物 (1:3)      | 24    |
| 第23図 土坑3平面・断面図 (1:15)     | 25    |
| 第24図 土坑4出土遺物 (1:3)        | 25    |
| 第25図 土坑3出土遺物 (1:3)        | 26    |
| 第26図 土坑4平面・断面図 (1:15)     | 27    |
| 第27図 上坑7平面・断面図 (1:15)     | 28    |
| 第28図 土坑7・溝4出土遺物 (1:3)     | 28    |
| 第29図 溝3 A区遺物出土状況 (1:15)   | 29    |
| 第30図 溝3 B区遺物出土状況 (1:15)   | 30    |
| 第31図 溝3 C~E区遺物出土状況 (1:15) | 31    |
| 第32図 溝3出土遺物1 (1:3)        | 32    |
| 第33図 溝3出土遺物2 (1:3)        | 33    |
| 第34図 溝3出土遺物3 (1:3)        | 34    |
| 第35図 溝4平面・断面図 (1:15)      | 35    |

(第V章 本町遺跡第34次調査)

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 第36図 調査範囲図 (1:200) .....    | 37 |
| 第37図 調査地位置図 (1:5,000) ..... | 37 |
| 第38図 調査区平面・断面図 (1:60) ..... | 38 |
| 第39図 出土遺物 (1:4) .....       | 40 |

(第VI章 穂積遺跡第36次調査)

|  |    |
|--|----|
| 第40図 調査範囲図 (1:250) .....               | 41 |
| 第41図 調査地位置図 (1:5,000) .....            | 41 |
| 第42図 調査区平面・断面図 (1:100) 2面合成 .....      | 42 |
| 第43図 基盤層上面平面図 (1:100) .....            | 43 |
| 第44図 包含層上面平面図 (1:100) .....            | 44 |
| 第45図 包含層出土遺物 (1:3) .....               | 45 |
| 第46図 S P 190遺物出土状況 (1:10) .....        | 46 |
| 第47図 建物出土遺物 (1~6・8・9は1:3, 7は1:4) ..... | 46 |
| 第48図 その他の柱穴出土遺物 (1:3, 16のみ1:4) .....   | 47 |
| 第49図 S P 112出土遺物 (1:3) .....           | 47 |
| 第50図 井戸1平面・断面図 (1:20) .....            | 48 |
| 第51図 S P 112遺物出土状況 (1:10) .....        | 48 |
| 第52図 井戸1出土遺物 (1は1:3, 2は1:4) .....      | 48 |
| 第53図 井戸3~5断面図 (1:20) .....             | 49 |
| 第54図 井戸3・5出土遺物 (1は1:3, 2は1:4) .....    | 49 |
| 第55図 井戸2断面図 (1:20) .....               | 49 |
| 第56図 土器群2遺物出土状況 .....                  | 50 |
| 第57図 土器群3遺物出土状況 .....                  | 50 |
| 第58図 上器群2・3山土遺物 (1:3) .....            | 50 |
| 第59図 S P 85出土遺物 (1~3は1:3, 4は1:4) ..... | 51 |
| 第60図 S P 126出土遺物 (1:3) .....           | 51 |
| 第61図 S P 126遺物出土状況 (1:10) .....        | 51 |
| 第62図 溝1・2出土遺物 (1は1:3, 2は1:4) .....     | 51 |
| 第63図 土坑4断面図 (1:20) .....               | 52 |
| 第64図 土坑8断面図 (1:20) .....               | 52 |

(第VII章 桜塚古墳群第10次調査)

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 第65図 調査範囲図 (1:200) .....    | 55 |
| 第66図 調査地位置図 (1:5,000) ..... | 55 |
| 第67図 調査区平面・断面図 (1:40) ..... | 56 |

(第VIII章 確認調査の成果)

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 第1表 確認調査一覧表 .....     | 57 |
| 第68図 確認調査地点位置図 .....  | 58 |
| 第69図 トレンチ掘削状況 .....   | 59 |
| 第70図 トレンチ断面図 .....    | 59 |
| 第71図 トレンチ掘削状況 .....   | 59 |
| 第72図 トレンチ平面・断面図 ..... | 59 |

|       |            |    |
|-------|------------|----|
| 第73図  | トレンチ掘削状況   | 59 |
| 第74図  | トレンチ断面図    | 59 |
| 第75図  | トレンチ掘削状況   | 59 |
| 第76図  | トレンチ断面図    | 59 |
| 第77図  | トレンチ掘削状況   | 60 |
| 第78図  | トレンチ断面図    | 60 |
| 第79図  | トレンチ掘削状況   | 60 |
| 第80図  | トレンチ平面・断面図 | 60 |
| 第81図  | トレンチ掘削状況   | 60 |
| 第82図  | トレンチ断面図    | 60 |
| 第83図  | トレンチ掘削状況   | 60 |
| 第84図  | トレンチ断面図    | 60 |
| 第85図  | トレンチ掘削状況   | 61 |
| 第86図  | トレンチ断面図    | 61 |
| 第87図  | トレンチ掘削状況   | 61 |
| 第88図  | トレンチ断面図    | 61 |
| 第89図  | トレンチ掘削状況   | 61 |
| 第90図  | トレンチ断面図    | 61 |
| 第91図  | トレンチ掘削状況   | 61 |
| 第92図  | トレンチ断面図    | 61 |
| 第93図  | トレンチ掘削状況   | 62 |
| 第94図  | トレンチ断面図    | 62 |
| 第95図  | トレンチ掘削状況   | 62 |
| 第96図  | トレンチ断面図    | 62 |
| 第97図  | トレンチ掘削状況   | 62 |
| 第98図  | トレンチ断面図    | 62 |
| 第99図  | トレンチ掘削状況   | 62 |
| 第100図 | トレンチ断面図    | 62 |
| 第101図 | トレンチ掘削状況   | 63 |
| 第102図 | トレンチ平面・断面図 | 63 |
| 第103図 | トレンチ掘削状況   | 63 |
| 第104図 | トレンチ断面図    | 63 |
| 第105図 | トレンチ掘削状況   | 63 |
| 第106図 | トレンチ平面・断面図 | 63 |
| 第107図 | トレンチ掘削状況   | 63 |
| 第108図 | トレンチ断面図    | 63 |
| 第109図 | トレンチ掘削状況   | 64 |
| 第110図 | トレンチ断面図    | 64 |
| 第111図 | トレンチ掘削状況   | 64 |
| 第112図 | トレンチ断面図    | 64 |
| 第113図 | トレンチ掘削状況   | 64 |
| 第114図 | トレンチ断面図    | 64 |
| 第115図 | トレンチ掘削状況   | 64 |
| 第116図 | トレンチ断面図    | 64 |
| 第117図 | トレンチ掘削状況   | 65 |

|       |            |       |    |
|-------|------------|-------|----|
| 第118図 | トレンチ断面図    | ..... | 65 |
| 第119図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 65 |
| 第120図 | トレンチ断面図    | ..... | 65 |
| 第121図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 65 |
| 第122図 | トレンチ断面図    | ..... | 65 |
| 第123図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 65 |
| 第124図 | トレンチ断面図    | ..... | 65 |
| 第125図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 66 |
| 第126図 | トレンチ断面図    | ..... | 66 |
| 第127図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 66 |
| 第128図 | トレンチ断面図    | ..... | 66 |
| 第129図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 66 |
| 第130図 | トレンチ断面図    | ..... | 66 |
| 第131図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 66 |
| 第132図 | トレンチ断面図    | ..... | 66 |
| 第133図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 67 |
| 第134図 | トレンチ断面図    | ..... | 67 |
| 第135図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 67 |
| 第136図 | トレンチ断面図    | ..... | 67 |
| 第137図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 67 |
| 第138図 | トレンチ断面図    | ..... | 67 |
| 第139図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 67 |
| 第140図 | トレンチ平面・断面図 | ..... | 67 |
| 第141図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 68 |
| 第142図 | トレンチ平面・断面図 | ..... | 68 |
| 第143図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 68 |
| 第144図 | トレンチ断面図    | ..... | 68 |
| 第145図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 68 |
| 第146図 | トレンチ断面図    | ..... | 68 |
| 第147図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 68 |
| 第148図 | トレンチ断面図    | ..... | 68 |
| 第149図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 69 |
| 第150図 | トレンチ断面図    | ..... | 69 |
| 第151図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 69 |
| 第152図 | トレンチ断面図    | ..... | 69 |
| 第153図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 69 |
| 第154図 | トレンチ断面図    | ..... | 69 |
| 第155図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 69 |
| 第156図 | トレンチ断面図    | ..... | 69 |
| 第157図 | トレンチ掘削状況   | ..... | 70 |
| 第158図 | トレンチ平面・断面図 | ..... | 70 |

## 図 版 目 次

### 図版1 原田遺跡第9次調査

- (1) 第1トレンチ2層上面
- (2) 第1トレンチ3-1層上面

### 図版2 原山遺跡第9次調査

- (1) 第1トレンチ3-4層上面
- (2) 第1トレンチ4層上面
- (3) 第1トレンチ土坑2

### 図版3 原田遺跡第9次調査

- (1) 第2トレンチ全景
- (2) 第2トレンチ集石土坑

### 図版4 小曾根遺跡第28次調査

- (1) 調査区北半部第2面  
完掘状況（北西から）
- (2) 調査区南半部第2面  
完掘状況（西から）

### 図版5 豊島北遺跡第4次調査

- (1) 1区全景
- (2) 2区全景

### 図版6 豊島北遺跡第4次調査

- (1) 建物1
- (2) 建物1柱穴（S P 1）

### 図版7 豊島北遺跡第4次調査

- (1) 土坑3遺物出土状況
- (2) 溝3遺物出土状況

### 図版8 木町遺跡第34次調査

- (1) 調査区全景（南から）
- (2) 柱穴1断面（東から）

### 図版9 木町遺跡第34次調査

- (1) 焼土検出状況（南西から）
- (2) 遺物出土状況（調査区南壁）

### 図版10 穂積遺跡第36次調査

- (1) 1区包含層上面
- (2) 1区基盤層上面

### 図版11 穂積遺跡第36次調査

- (1) 2区包含層上面
- (2) 2区基盤層上面

### 図版12 穂積遺跡第36次調査

- (1) S P 112遺物出土状況
- (2) 土器群3遺物出土状況

### 図版13 穂積遺跡第36次調査

- (1) S P 190遺物出土状況
- (2) 井戸1

### 図版14 桜塚古墳群第10次調査

- (1) 調査区全景（南東から）
- (2) 周濠埋土断面（西から）

## 第Ⅰ章 位置と環境

### 1. 地理的環境

大阪市北郊に所在の豊中市は、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では攝津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治43年の箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）開通を契機に宅地化が進み、現在では面積約38km<sup>2</sup>の市域中に約40万人もの人口を擁する北摂有数の住宅都市にまで発展している。こうした発展に至った背景としては、名神高速道路や阪神高速道路などの幹線道路、大阪国際空港など陸空の交通における利便性の高さが考えられよう。

一方地形に目を転じると、豊中市は北から南に向かって標高が低くなる特徴を有しており、島熊山付近の最高地点（海拔約100m）から最も低い大鳥町付近（海拔1m以下）にかけておよそ100mの比高差を有する。市北部は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる2つの丘陵地、続いて中部は主に千里丘陵から派生する中・低位段丘を中心とした豊中台地、南部は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部といった、巨視的にみて三区分が可能である。

今回報告する6遺跡は、第Ⅱ章原田城跡（北城）内で実施した原田遺跡、第V章本町遺跡、第VI章桜塚古墳群は通称豊中台地と呼ばれる段丘上に立地する遺跡であり、第IV章豊島北遺跡は苔根の段丘直下の沖積地、第III章小首根遺跡、第VI章穂積遺跡はそれぞれ天竺川右岸、左岸に展開する沖積低地に立地する。

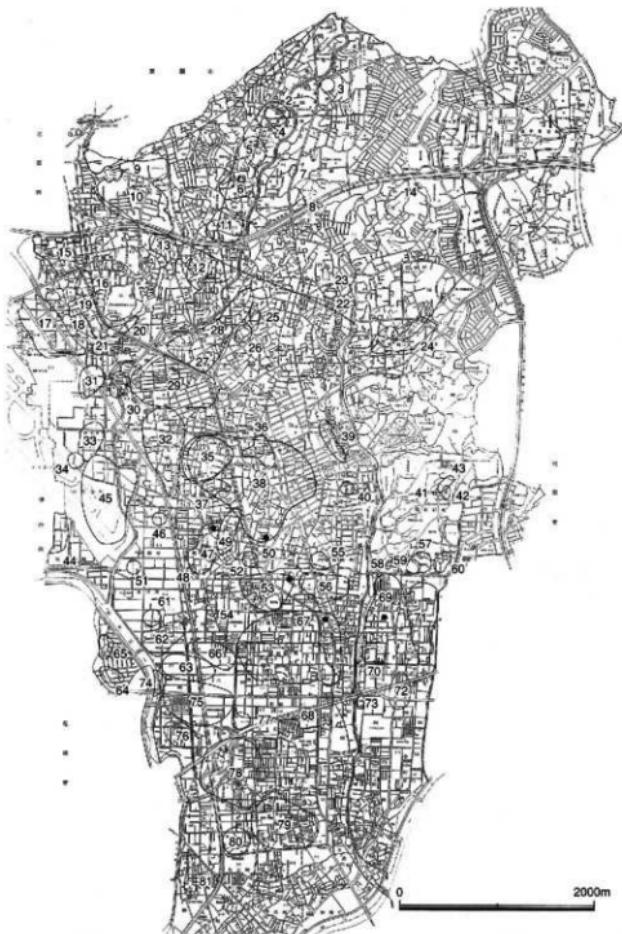
### 2. 歴史的環境

ここでは今回報告する遺跡の時期・動向に限定して、集落の動向を中心に述べていく。

**本町遺跡** 豊中市域における弥生集落は弥生中期以降次第に低地から台地上に進出することとなり、千里川流域では新免遺跡がその好例として挙げられる。新免遺跡は弥生中期段階で居住域・墓域を有する拠点集落としての性格を有する。一方新免遺跡と東接する本町遺跡も弥生中期段階が集落の初現とみられるが、新免集落からの分村程度とみられ、その格差は歴然としている。本町遺跡が本格的な盛期を迎えるのは古墳後期になって以降である。その背景として柴原遺跡、新免遺跡等とともに、千里川上流域一帯に展開した桜井谷窯跡群で生産された須恵器の選別作業に関与した集落であったことが考えられる。

**原田遺跡** 段丘の末端に立地する原田遺跡は、弥生中期～後期が集落の初現とみられ、後期末で一旦衰退するようである。その後11世紀末になって文献に原田郷に関する記事が登場し、15世紀後半には原田氏の居館としての原田城が成立していたことがうかがえる。原田城には北城、南城が存在し、近年の発掘調査によって北城の成立は15世紀代、南城のそれは16世紀代、一方廃絶はいずれも16世紀末～17世紀初頭頃とみられている。さらに北城では一部で土星の痕跡が

## 2. 歷史的環境



|             |                |                 |                  |              |              |               |          |
|-------------|----------------|-----------------|------------------|--------------|--------------|---------------|----------|
| 1. 大坂宿古跡群   | 12. 烏原塚跡       | 24. 斑目川遺跡       | 36. 四軒塚跡         | 47. 植松城跡(北城) | 58. 石塚寺遺跡    | 69. 石舟寺跡      | 71. 北条虎跡 |
| 2. 舟伏山町古墳群  | 13. 北万葉山遺跡     | 25. 金合山跡        | 37. 阿野山遺跡        | 48. 原村城跡(北城) | 60. 今内溫跡     | 72. 小笠原山遺跡    |          |
| 3. 野代鬼塚     | 14. 志伊勢船塚      | 26. 八戸前山塚群      | 38. 横瀬山遺跡        | 61. 佐々木城跡    | 73. 上北沢御所跡   |               |          |
| 4. 丹仙山古跡群   | 15. 飯能北(宮の山)遺跡 | 27. 金守山(中守村)鶴巣石 | 39. 下津瀬跡         | 62. 佐々木道跡    | 63. 佐々木御所跡   | 74. 上山(山)IC遺跡 |          |
| 5. 少翁塚      | 16. 飯永東塚       | 28. 本町遺跡        | 40. 亂石山遺跡        | 63. 佐々木寒風跡   | 64. 佐々木鬼塚跡   | 75. 上神戸鬼塚     |          |
| 6. 天藏の御番所跡群 | 17. 飯西南塚       | 29. 五之北塚        | 41. 鹿次六塚         | 65. 丹波守中下笠跡  | 65. 丹波守中北笠跡  | 76. 上高井戸鬼塚    |          |
| 7. 鹿井谷寺跡群   | 18. 飯造塚        | 30. 鶴見東塚跡       | 42. 鹿和山遺跡        | 66. 丹波守中御守跡  | 66. 鶴見西鬼塚跡   | 77. 鶴見ボンブ港遺跡  |          |
| 7. 鹿井谷寺跡群   | 19. 鹿田堤場跡      | 31. 鶴見北塚        | 43. 大阪淀缺跡(奉行手見記) | 67. 丹波守山遺跡   | 67. 横瀬城跡     | 78. 鶴見鬼塚      |          |
| 8. 丹仙山遺跡群   | 20. 万葉山遺跡      | 32. 山ノ一塚跡       | 44. 丹波守山遺跡       | 68. 丹波守山遺跡   | 68. 丹波守山遺跡   | 79. 鶴見鬼塚      |          |
| 9. 佐倉山古跡    | 21. 鶴神山古跡      | 33. 鶴神山古跡       | 45. 鹿沼遺跡         | 69. 丹波守形     | 69. 小倉御所跡    | 80. 鳥居鬼塚      |          |
| 10. 佐倉山古跡   | 22. 上野墓塚       | 34. 鹿井鬼塚        | 46. 鹿沼遺跡         | 70. 丹波守形     | 70. 春日大社御所時代 |               |          |
| 11. 内田鬼塚    | 23. 鶴曲古塚       | 35. 鶴見北塚        | 47. 鶴沼遺跡         |              |              |               |          |

第1図 市内遺跡分布図

確認されるなど、徐々にではあるが築城当時の姿が明らかになりつつある。今回報告する調査地は原田城北城の主郭部分に位置しており、北城の成立時期や主郭の構造に関わる知見が得られるものと期待された。

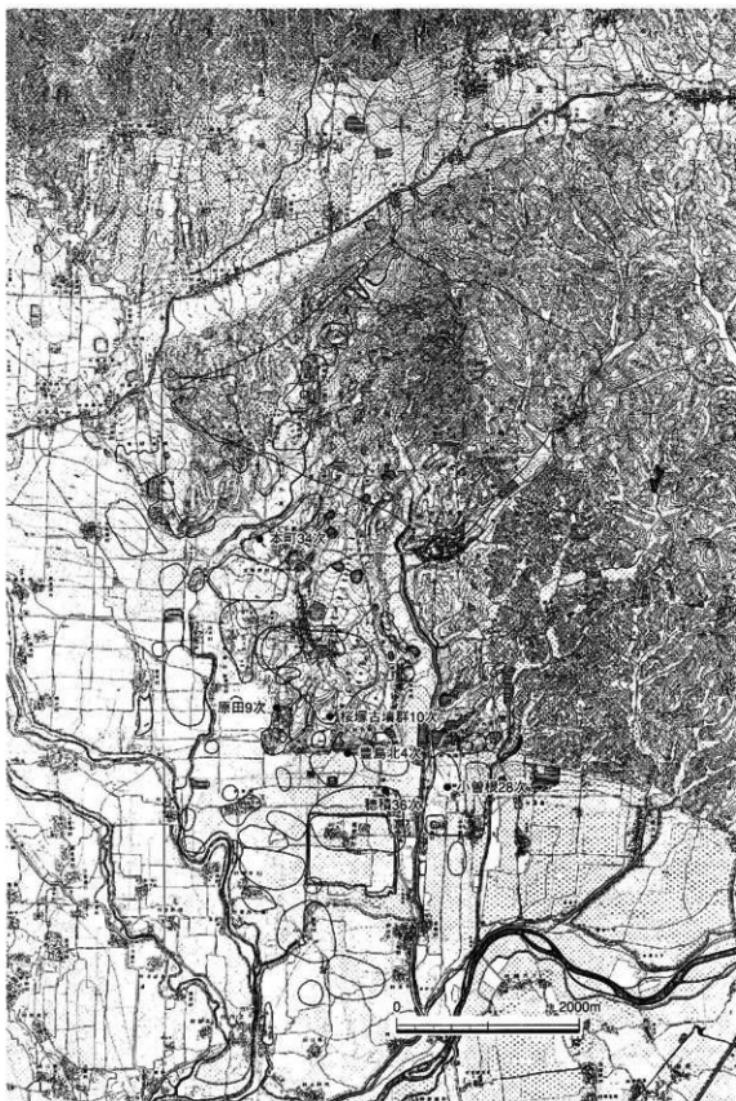
**桜塚古墳群** 古墳時代前期後半、豊中台地に突如出現する大石塚古墳、それに続く小石塚古墳は桜塚古墳群の開始を告げるものであった。同古墳群は少なくとも40~50基の古墳が存在したとみられるが、宅地開発によって多くの古墳は消滅してしまい、今では大塚古墳、御獅子塚古墳、南天平塚古墳など5基が現存するのみである。一方、今回の調査地を含む同古墳群南部は、近年新たな小規模な古墳の発見が相次いでいる。南部の古墳は古墳時代後期前後の築造とみられるものが多く、桜塚古墳群後半~終焉にかけて小規模古墳の動態を把握するうえでは重要なエリアである。今回の調査は、以上の課題に加え、過去に付近で検出されている古墳関連の遺構・遺物との関係が注目された。

**豊島北遺跡** 曾根の段丘崖直下に形成された豊島北遺跡は弥生後期~終末期に集落が形成されるが、古墳時代以降集落は衰退する。その後奈良時代以降は耕作地が展開したようであるが、そのなかで第3次調査で確認された東西方向の畦畔・溝はその位置からみて攝津国豊島郡の北条と南条の巣境に、南北方向の溝は坪境の溝とみられ、条里による土地区画が鎌倉~室町時代には成立していたことが確認された。今後はその成立時期がどこまでさかのほるかが問題になってこよう。今回の調査地は遺跡東端部、曾根の段丘崖から伸びる小規模な谷間付近に位置しており、周囲では主に弥生後期~終末期の遺構・遺物が確認されているところである。

**穗積遺跡** 本格的に集落が形成されるのは弥生時代後期を迎えてからであり、古墳時代初頭にかけて豊中南部における拠点集落として展開する。なかでも弥生終末期の集落からは連鉄式の銅鏡未製品が出土するなど、一般の集落ではみられない青銅製品を生産する集落でもあった。その後集落の勢いは古墳時代後期まで一旦衰えることになるが、飛鳥時代以降は次第に耕地化が進むようである。鎌倉時代になると小規模な集落が遺跡中心部と東端部の再編されていくようである。今回の調査地は、遺跡北東端部、春日社領垂水西牧服部村の一角に位置しており、検出された建物跡は中世服部村の展開をうかがい知ることができるものと期待された。

**小曾根遺跡** 天竺川と高川に挟まれた沖積低地に立地する小曾根遺跡は、弥生前期段階で集落の形成が始まり、中期には天竺川流域における拠点集落として大きく発展する。弥生後期~終末期以降、集落は次第に衰退するが、平安時代末期に再び集落が出現し、以後近世まで継続する。平安時代末期の小曾根遺跡や穗積遺跡一帯は、攝關家領（後の春日社領）の莊園垂水西牧の一角に相当しており、なかでも小曾根遺跡で確認された区画溝とともに建物群は、名主屋が台頭してきたことをうかがわせ、「今西家文書」をはじめとする文献と対比できる希少な事例である。

2. 歴史的環境



第2図 調査地点と周辺の地形

## 第Ⅱ章 原田遺跡第9次調査

### 1. 調査の経緯

今回の調査は、市指定史跡原田城跡（北城）範囲内における範囲確認調査の一環として行ったものである。第1期では、内堀および南辺の土塁について確認した。今回の調査では、北城の築城時期および旧羽室家住宅の建物にかかる遺構面への影響等を確認するために行った。

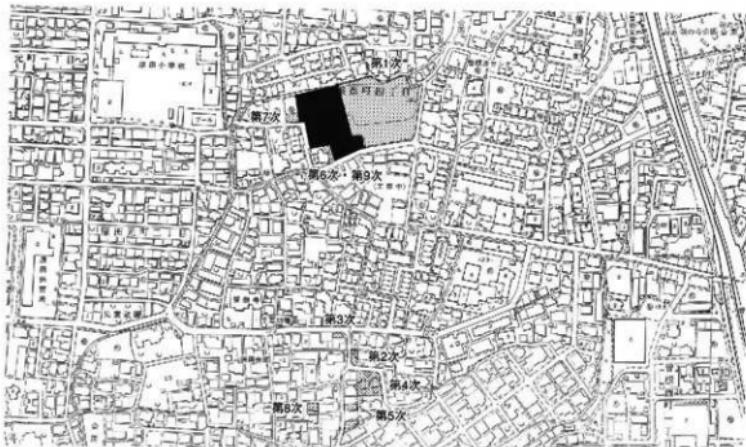
### 2. 調査の概要

#### （1）基本層序

主郭部分で基本層序を完全に把握したのは、第1トレンチに限定される。よって、第1トレンチにおける基本層の構成について述べることにする。なお、第2トレンチは、2層上面で掘削をとどめた。

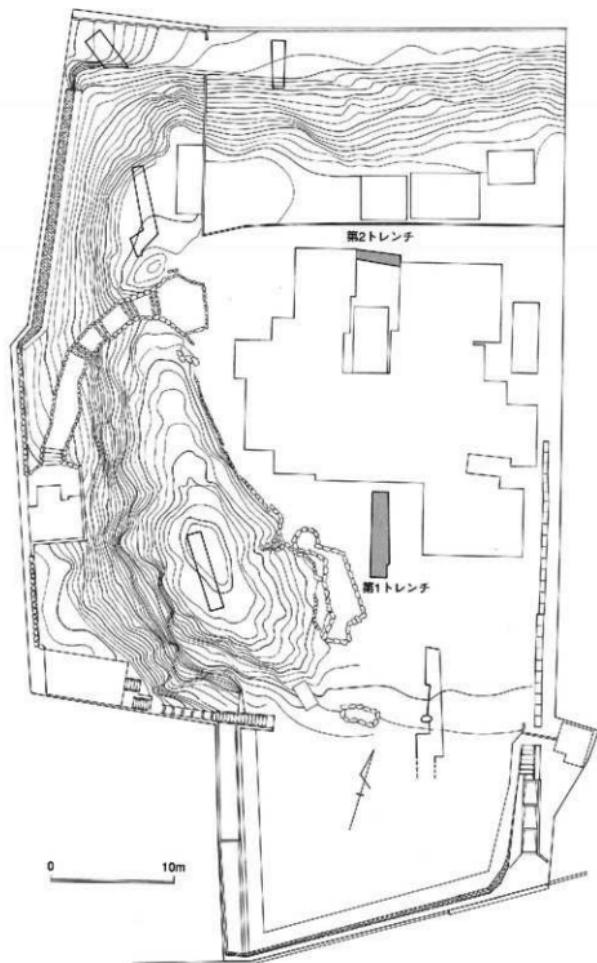
第1トレンチでは、現地表下から1.2m下で段丘形成層を確認したが、この間に表土・昭和初期の整地層・近代以前の整地層・黄褐色粘質土層・城郭機能段階の整地層等が堆積する。以下、これらの堆積層および整地層の特徴について述べることにする。

1-1層 主に段丘形成層（以下、基盤層とする。）によって構成される整地上で、旧羽室家住宅建築に伴う整地層と考えられる。レンガ・瓦等の混入物が極めて少ないとから、土塁を削平して整地した可能性が考えられる。



第3図 調査位置図 (1 : 5,000)

2. 調査の概要

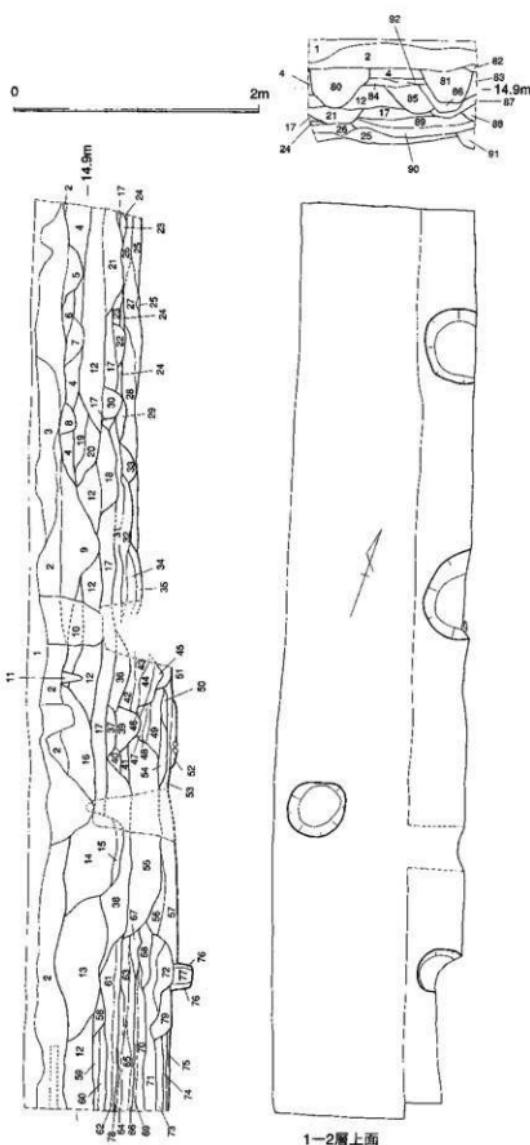


第4図 トレンチ位置図 (1 : 400)

**1—2層 黄褐色極細粒砂に基盤層ブロックを含む整地土である。2—1層が柔弱なために、整地したものと考えられる。上面からピットが検出されていることから、旧羽屋家住宅が建築される以前の建築に伴う可能性が考えられる。同層からは、18世紀後半以降の遺物が含まれることから、それ以降の時期に整地されたと言える。**

**2層 均質な黄褐色極細粒砂で、崖錐性堆積層に類似する。極めて柔弱であり、閉鎖的な環境の下で堆積したものと言える。おそらくは、土塁等の流出土が2次的に堆積したのであろう。同層上面溝2からは、I—2期の肥前系陶器皿が出土しており、16世紀末までに堆積したことが想定できる。同層は層厚20cm前後であり、これが堆積するのには、一定の期間を要したと考えられる。また、この間、城内で人間**

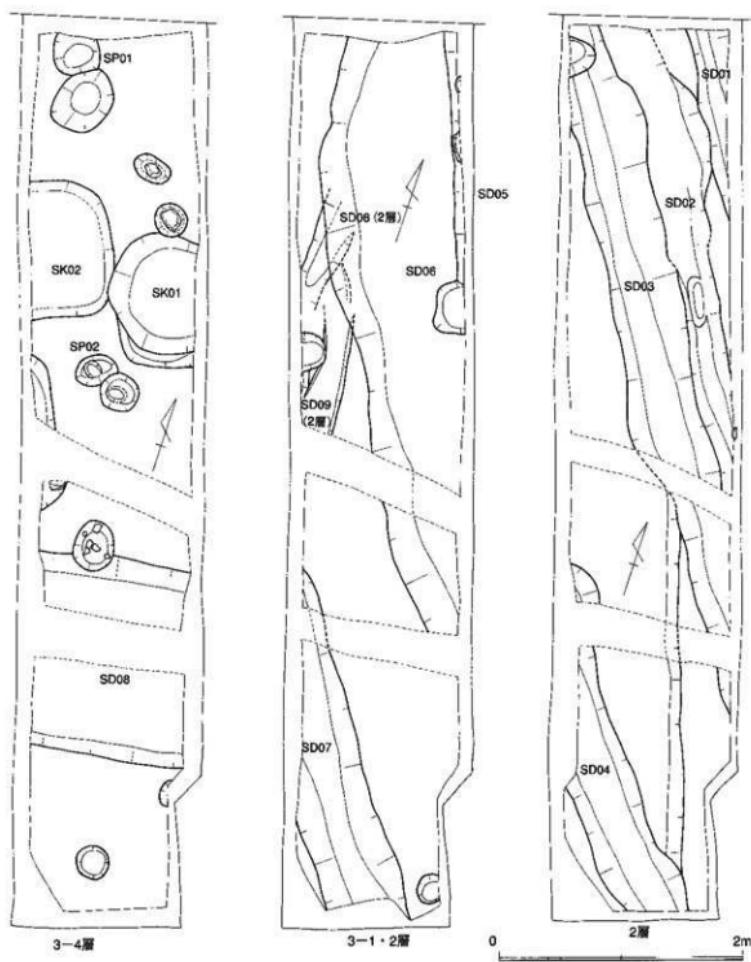
第5図 第1トレーン壁面断面・1—2層平面図  
(1:40)



## 2. 調査の概要

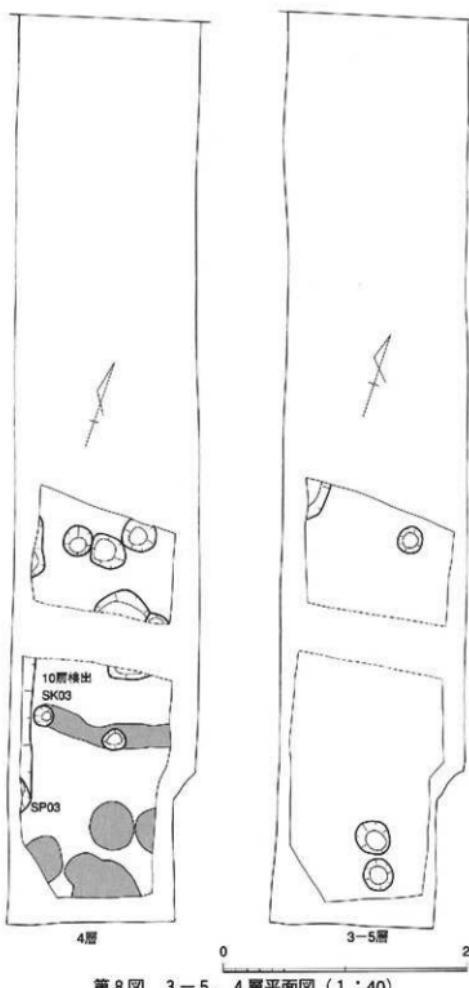
第6図 第1トレーナー壁面土層注記

1. 黒褐色～灰褐色 (2.5Y3/1 ~ 4/1) 厚極上
2. 黄褐色 (10YR5/6) 植物砂～粘土 砂を少  
量含む。苔類層を適用した整地土で、昭和12年の  
建築物に伴うものと考えられる。
3. 褐黃色 (2.5Y3/2) 細～粗粒砂中に中粒  
砂を多く含む。鐵～鐵錫ブロックを含む。
4. 黄褐色 (2.5Y4/4) 厚層～細粒砂 砂・土  
質細粒を少々含む。昭和12年以前の整理層と  
考えられる。
5. 黄色 (10YR4/4) 植物砂中に細粒砂を少々  
含む。石・石を多少含む。
6. 灰色 (10YR4/4) 植物砂中に細粒砂を少々  
含む。鐵・石を多く含む。
7. 暗灰褐色 (2.5Y3/3) 細～粗粒砂中に中粒  
砂を多く含む。鐵を含む。
8. 茶褐色 (2.5Y4/4) 細～粗粒砂中に粗粒砂  
を含む。
9. 暗褐色 (2.5Y3/2) 細～粗粒砂 砂を多  
く含む。鐵を含む。
10. 黃褐色 (10YR4/4) 植物砂中に細粒砂を少々  
含む。鐵・石を多く含む。
11. 鹿乳 (2.5Y3/3) 細～粗粒砂中に中粒  
砂を多く含む。鐵錫ブロックを含む。
12. 鹿乳 (2.5Y3/3) 植物～粗粒砂 砂を少  
量含む。自然草種種。
13. 明褐色 (10YR6/6) 植物～中粒砂 石・  
礫を含む。
14. 明褐色 (10YR6/6) 植物～粗粒砂中に中粒  
砂を多く含む。
15. 鹿乳 (2.5Y4/3) 細～粗粒砂 シルトを  
含む。
16. 明褐色 (10YR6/6) 植物～粗粒砂 砂を少  
量含む。
17. にせい黄褐色 (10YR5/4) シルト～粗粒砂  
中粒砂中に少々含む。
18. 黄褐色 (2.5Y3/4) 細～粗粒砂中にシルト  
を多く含む。鐵錫～鐵錫を含む。
19. 黄褐色 (2.5Y3/4) 細～粗粒砂中に中粒砂  
～鐵錫を多く含む。
20. 黄褐色 (2.5Y3/4) 細～粗粒砂 砂を含  
む。
21. 晴褐色 (2.5Y4/2) 細～粗粒砂 鐵を含  
む。土質細粒を少々含む。
22. 灰褐色 (2.5Y4/2) 細～粗粒砂中に灰褐色  
(2.5Y7/2) ブロック・苔類層を適用する。
23. 基盤層ブロックに鉄褐色 (10YR6/1) シル  
トを含む。整地層。
24. 基盤層ブロックに褐褐色 (10YR6/1) シル  
トを多く含む。鐵錫。
25. 海底土 (10YR5/1) 粘土砂中に粗粒砂を少  
量含む。風・流水現象・角礫を多く含む。火災に  
伴う整地層。
26. にせい黄褐色 (10YR5/4) シルト～粗粒砂  
中粒砂中に少々含む。鐵を少々含む。
27. 黄褐色 (10YR7/8) 中～粗粒砂中に灰褐色  
(10YR6/1) 粘土ブロックを含む。整地層。
28. にせい黄褐色 (10YR5/4) シルト～粗粒砂  
中粒砂中に少々含む。鐵錫～鐵錫。
29. 黄褐色 (2.5Y3/4) 細～粗粒砂 砂を少  
量含む。鐵錫。
30. にせい黄褐色 (10YR5/4) シルト～粗粒砂  
中粒砂中に少々含む。鐵錫。
31. 黄褐色 (2.5Y5/2) シルト～粗粒砂中に  
鉄褐色 (2.5Y3/1) シルトブロックを含む。鐵  
土ブロックを含む。
32. 明褐色 (2.5Y3/1) 細～粗粒砂中にシル  
トを含む。風・風・流水ブロックを少々含む。
33. 基盤層ブロックほかに明褐色 (10YR6/8)  
粗粒砂を含む。土質・鐵を少々含む。
34. 明褐色 (2.5Y3/1) 細～粗粒砂中にシル  
トを含む。基盤層ブロックを含む。
35. にせい褐色 (7.5YR5/3) 小～粗粒砂 砂・  
鐵錫～鐵錫を含む。
36. 灰褐色 (7.5YR5/2) 植物～粗粒砂 砂の  
右を含む。鐵を少々含む。鐵・上層砂を少々含む。
37. 黑褐色 (5YR5/2) 細～粗粒砂 砂を多  
く含む。鐵を少々含む。
38. 灰褐色 (7.5YR4/1) 鉄錫～粗粒砂 鐵を少  
量含む。
39. 未成褐色 (2.5Y7/3) ～灰褐色 (2.5Y6/2) 相  
中粒砂中に粗粒砂・鐵錫を含む。基盤層ブロック  
を多く含む。
40. 灰褐色 (10YR6/2) 細～中粒砂中に粗粒砂  
を多く含む。基盤層ブロックを局所的に含む。  
整地層。
41. 黑褐色 (10YR6/2) 中～粗粒砂中に粗粒砂  
を含む。鐵錫を多く含む。整地層。
42. 茶褐色 (10YR7/1) 植物～中粒砂 砂を少  
量含む。
43. 黑褐色 (10YR5/1) 粗粒砂中に粗粒砂を含  
む。鐵錫を多く含む。
44. 灰褐色 (10YR7/1) 粗粒砂 基盤層ブロック  
～灰褐色 (7.5YR4/2) 粘土ブロックを多く含  
む。
45. 黑褐色 (10YR5/1) 粗粒砂 淡褐色  
(5YR4) 粘土ブロックを含む。
46. 褐褐色 (2.5Y3/3) 粗粒砂 鐵錫を少々含む。  
整地層。
47. 黄褐色 (10YR5/1) 粗粒砂中に粗粒砂を含  
む。鐵錫を少々含む。整地層。
48. 黄褐色 (2.5Y7/2) 粘土 (基盤層ブロック)  
整地層。
49. にせい黄褐色 (10YR6/4) 中～粗粒砂 基  
盤層ブロックを多く含む。整地層。
50. 黑褐色 (2.5Y5/2) 粗粒砂～シルト  
～土質細粒を少々含む。
51. 鉄褐色 (10YR5/1) 粗粒砂 灰褐色  
(5YH1) 上層砂ブロックを多く含む。
52. 黑褐色 (2.5Y5/2) 中～粗粒砂 鐵錫を少  
量含む。
53. 黑褐色 (2.5Y5/2) 粗粒砂～シルトに鐵  
錫を含む。鐵・土質細粒を少々含む。
54. 黄褐色 (2.5Y4/5) 粘土 (基盤層ブロック)  
整地層。
55. 戎黄色 (2.5Y6/3) 中～粗粒砂 砂を多く  
含む。鐵錫ブロックを含む。
56. 黑褐色 (2.5Y7/2) 中～粗粒砂 砂を多  
く含む。鐵錫。
57. にせい褐色 (7.5YR6/4) 均質な粗粒砂  
を多く含む。鐵錫。
58. にせい褐色 (10YR6/4) 粗粒砂～シルト  
～石 砂を少々含む。
59. 灰褐色 (2.5Y5/2) 鉄錫～粗粒砂 基盤層ブ  
ロック・鐵錫を含む。鐵を少々含む。
60. 基盤層ブロックはかねびブロックに鐵を少  
量含む。整地層。
61. 黄褐色 (10YR7/8) 中～粗粒砂中に灰褐色  
(10YR6/1) 粘土ブロックを含む。上層砂に崩  
壊する整地層。
62. 黄褐色 (2.5Y5/2) 比較的均質な粗粒砂  
灰褐色 (5YR1) 粘土ブロックを多く含む。整  
地層。



第7図 2、3-1・2・4層平面図 (1:40)

## 2. 調査の概要



第8図 3-5、4層平面図 (1:40)

### (2) 第1トレンチの様相

先の基本層序で述べたように、第1トレンチでは多彩な堆積層が確認された。遺構は、それら各時期の堆積層上面で検出されたので、ここでは各遺構面毎にその様相を述べていく。

による活動が行われていたとするならば、同層が均質的に堆積する可能性は乏しい。よって、同層が堆積する期間に関しては、廃城状態であった可能性が極めて高い。

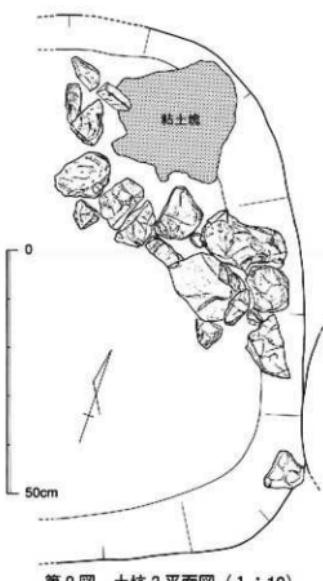
**3-1層** 2層と同質の堆積層である。2層から区分したのは、同層上の遺構面をもって城郭機能が停止することによる。

**3-2層** 灰白色粘土を多く用いた整地土で、16世紀前半頃の所産と考えられる。

**3-3層** 炭・焼土を多く含む堆積土で、火災に伴う可能性が高い。

**3-4～6層** 基盤層・灰白色粘土等の整地土で、各層の層厚1～5cm前後をはかる。特に第1トレンチ南側では、三和土風に整地された状況を確認している。トレンチ南壁面では、層境に炭・焼土層を挟む部分があり、3-3層以外にも、火災があった可能性がある。

**4層** 段丘形成層である。礫を多く含んだ黄褐色粘土からなる。



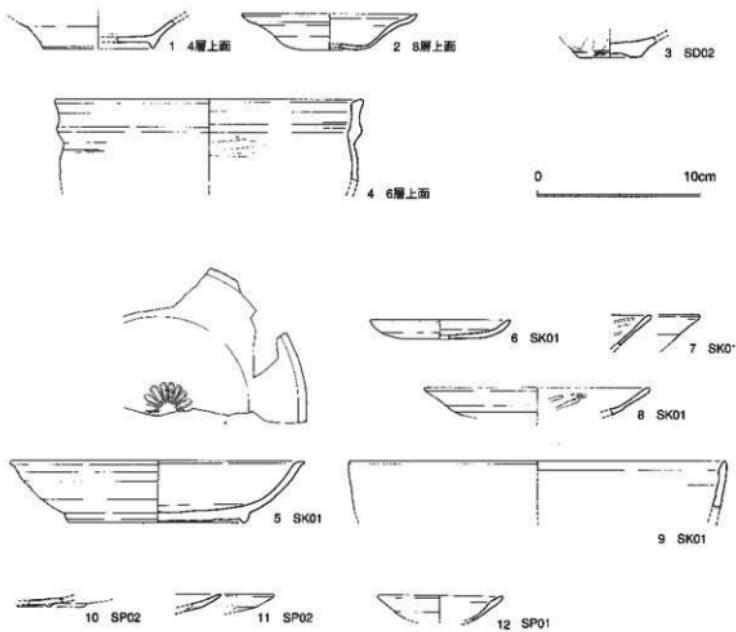
第9図 土坑2平面図（1:10）

は、壁面断面で確認できることから、ほぼ同位置に複数条の溝を掘削したことになるが、その目的等は不明である。また、溝5はトレチ北半部の東壁面側でごく一部を検出しただけに止まるが、溝の方向は明らかに溝6・7と異なる。また、壁面に河原石が並ぶように検出されていることや、5~10cm大の栗石が出土していることから、石組みの溝等になる可能性が高い。細片のため、遺構の時期が特定できるものとは考えにくいが、16世紀前半代の可能性が考えられる。

**3-2層上面** 幅20cm前後、深さ5cm前後の溝2条とピット1基を検出した。溝の方向に規則性はなく、ピットも柱痕が確認できなかったことから、これらの遺構の性格については不明である。なお、これら遺構の埋土には、焼土・炭が多く含まれる。

**3-4層上面** 土坑2基・柱穴8基・溝1条を検出した。土坑1は、長径1.2m、深さ0.4mはかり、梢円形状の平面形を呈する。埋土に基盤層ブロックを多く含み、意図的に埋め戻されたものである。埋土中からは、第10図5の古瀬戸皿が出土した。これは3-3層で出土したものと接合できたものであり、土坑1の埋没時期と3-3層の堆積時期は大きく変わらないことが言える。このほか、第10図8の瓦器をはじめとする遺物が出土しているが、これらは細片で下層遺構からの混入品と考えられる。なお、出土した瓦器は、和泉型瓦器陶でIV-2期の所産と考えられる。なお、第10図9は、東海系捏鉢の口縁部となる可能性が考えられる。

## 2. 調査の概要



第10図 第1トレンチ出土遺物 (1 : 3)

土坑2は、長軸長1.1m、深さ10cm前後をはかり、隅丸長方形状の平面形を呈する。基底面上に15~30cm大の河原石が、北西から南東に向けて並ぶような状態で出土した。しかし、これらの石は、石組みとなるように配置されたものではないため、その性格等は不明である。また、土坑2北東端部では、灰白色粘土が敷き詰められたような状態で検出された。

溝8は、幅1.65m、深さ15cmをはかる。東西方向に掘削されているが、検出部分が限定されているため、性格は不明である。

このほか、柱穴を検出している。これらは、明確な柱痕や根石を伴うものであるが、調査範囲が限定されているため、建物には復元できなかった。SP01からは、瓦器片が出土しているが、これは下層からの混入品と考えられる。

なお、3~4層の北半部は、土坑等の遺構が多数検出された。これらについては、性格等が確定できないこともあり保存することにした。このため、以下の層については、トレンチ南半部に限定して調査を行った。

**3~5層上面** 柱穴3基と土坑1基を確認した。柱穴はいずれも直径20cm前後と小型であるが、柱痕を確認していることから、掘立柱建物の一部になる可能性が考えられる。これら遺構

からは、遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

**3-6層上面** トレンチ東側で、土坑と考えられる遺構の一部を検出したが、範囲が限定されているため遺構の性格は不明である。

**4層上面** 柱穴・土坑等を検出した。土坑は検出部分が假定されており、性格は不明である。柱穴の存在から掘立柱建物が存在する可能性が考えられる。なお、SP02からは、14世紀前半の可能性が考えられる土師器小皿が出土したが、図化できなかった。

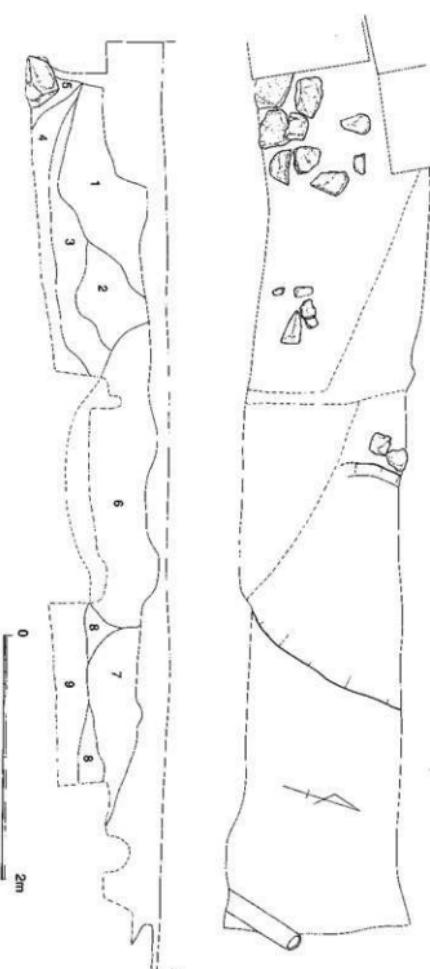
同層上面からは、これ以外にも多数の遺構を検出している。これらの遺構は、埋上の色調等から城郭以前の所産と考えられたため、今回は掘削しなかった。

以上、第1トレンチからは多数の遺構面を確認した。特に、3-4層で出土した瓦器碗片や4層上面のSP02の存在から、築城時期が14世紀初頭以前に遡ることになった点は、特筆できる成果と言えよう。

### (3) 第2トレンチの様相

当トレンチは、旧羽室家住宅の基礎掘削深度と、遺構面への影響の有無を確認するために設定したものである。トレンチを掘削した結果、住宅の基礎は2層上面で止まり、それ以下の遺構面に対する影響はほとんどないことを確認した。よって、旧羽室家住宅下には原田城関連遺構が、良好な状態で保存されていることが判明した。

なお、2層上面で河原石を多く含む土坑状の遺構（集石土坑）を検出したが、調査範囲が限



第11図 第2トレンチ平面・断面図 (1:40)

### 3.まとめ

定された上に、地下埋設物が錯綜しており、造構掘削ができる状況ではなかった。

### 3.まとめ

今回の調査の結果、第1トレンチにおいて、多数の造構面を検出したが、これら多数の造構面は各時期毎における原田城の状況を示す。よって、全面調査を行った場合、築城段階から廃城までの変遷が、明確に把握できるものと予見される。また、今回の調査は範囲が限定され、各造構面の時期の詳細まで把握できなかったものの、2層が16世紀末以降、3-1層上面が16世紀後半、3-2層上面が16世紀前半、3-4層が15世紀、3-6層あるいは4層が14世紀前半となることが想定できる。

よって、原田城北城の築城時期は、14世紀初頭以前に遡ると言える。このことによって、原田氏が文献上に初見する13世紀末に、築城された可能性が高くなった。また、3-1層は閉鎖的な空間において、あまり人が活動しない環境の下で堆積したと指摘したが、このことから16世紀中頃～後半のある時期に、主郭部分が放棄されていた可能性が考えられる。さらに、3-1層上面の造構は荒木村重の乱時の陣城段階の所産となる可能性も提示できるだろう。

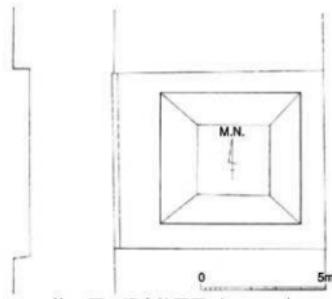
また、旧羽室家住宅の基礎が予想以上に浅く、原田城関連造構がほぼ完全な状態で保存されていることが想定できる。仮に全面調査を行った場合、築城から廢城、荒木村重の乱時の状況まで把握できることになる。北摂地域における国人層の城郭は、ほとんど現位置の推定すら困難なものが多く、繩張りの全体像が解明されているものはほとんどない。その上、出現から廢城にいたる過程が、原田氏の推移と合わせて検討できるという小規模城郭は、関西にあっても類希な存在と言える。

以上より、今回の調査によって、畿内の国人、原田氏の居城である原田城跡（北城）の重要性が明確なものとなった。また、原田城跡（北城）の出現にはじまる中世後期への胎動を、農中市南部における垂水西牧樅坂郷における悪党の展開などもあわせて検討することにより、畿内における在地領主層の転換など、南北朝期における社会構造の変革にかかる具体的な要因を解明する手がかりともなろう。

## 第Ⅲ章 小曾根遺跡第28次調査

### 1. 調査の経緯

当調査区は、豊中市北条町1丁目297-6に所在する。平成19年4月24日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成19年5月2日で確認調査を行ったところ、地表下約100cm、140cmのところでそれぞれ中世後期、平安時代とみられる遺構面を確認した。申請地では個人住宅の建設が予定されているが、それに伴う柱状地盤改良深度が約5mに達することから、現行の計画では遺構の破壊を免れず、協議の結果、本調査を実施することとなった。



第12図 調査範囲図（1：200）

### 2. 調査の概要

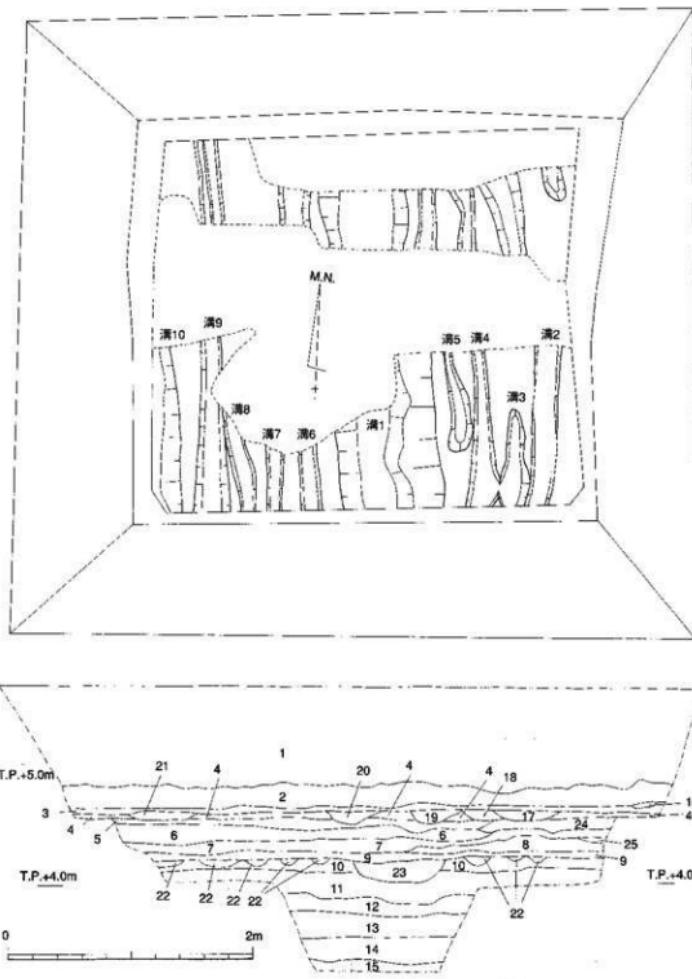
#### (1) 遺跡の概要

小曾根遺跡は豊中市南部、天竺川と高川に挟まれた沖積低地に位置し、縄文晩期から近世にかけて断続的に集落が営まってきた複合遺跡である。特に市道神崎・刀根山線西側で実施された第7・13・15・16次調査地付近が遺跡の中心地とみられ、弥生時代中期の集落からは竪穴住



第13図 調査地位置図（1：5,000）

## 2. 調査の概要



1. 現代の盛土。 2. 回耕作土。 3. 明緑灰色(7SY8/1)層～中粒砂。 4. 淡黄色(5Y8/4)断～中粒砂。第1回。 5. 黄青灰色(10BG7/1)～明緑灰色(10GY7/1)シルト。 6. 黄灰土(10BG7/1)～淡黄色(5YR8/4)細粒砂。 7. 明緑灰色(10GY7/1)～明青灰色(10BG7/1)細～粗粒砂等。 8. 明緑灰色(10GY7/1)シルトと灰白(N7)細粒砂の混合土(±1m)。 9. 灰色(5Y6/1)シルト～粗粒砂。 10. 底色(5Y6/1)シルト。厚2.0m。 11. 明緑灰色(10GY8/1)シルト。以降均質。 12. 灰色(N7)～灰白色(10Y7/1)シルト。 13. 黑黑色(N4)シルト。堆生時代の遺物包含層。 14. 半灰色(N5)細粒砂。堆生時代の遺構出。 15. 黑黑色(N4)細粒砂。 16. 黄黄色(2SY8/1)細粒砂。踏跡。 17. 灰白色(5YN1)中～粗粒砂。耕作層。 18. 淡黄色(5Y8/4)～淡黄色(5Y7/3)層～中粒砂。 19. 17と同じ。 20. 細灰黑色(2SY8/2)中～粗粒砂。 21. 明緑灰色(7SY8/1)～灰白色(5G8/1)細～中粒砂。 22. 灰色(5Y6/1)細粒砂シルト。厚2.0m。 23. 灰色(5YR8/1～5Y1)細粒砂シルト。厚1m。 24. 淡黄色(5Y8/4)～明青灰色(10BG7/1)細粒砂層が少量混ざる。 25. 黄灰色(5GY7/1)細粒砂。活埋土？。 26. 黄青灰色(10BG7/1)細粒砂と明緑灰色(10GY7/1)細粒砂の混合土(±1m)。

第14図 調査区平面・断面図 (1:40)

居、方形周溝墓が多数検出され、当該期の天竺川流域における拠点集落の一つとみられている。また平安後期から室町時代にかけての集落は、今西家に伝わる「攝津垂水西牧坂坂山畠取帳」に記された中世小曾根村の実態を考古学的な見地から明らかにするものとして注目されている。

今回の調査地は、遺跡の中心地よりも北西に位置しており、過去の調査事例の少ないエリアではあるが、周辺の調査成果から推測すると、集落縁辺部としての可能性が考えられる。

## (2) 基本層序

基本層序は地表下約90cmまでは現代の盛土（1層）であり、その直下に宅地化直前段階までの耕作土（2層）が20cm程度堆積する。3～9層までの約40cmは明緑灰色～灰色を基調とした細～極細粒砂層であるが、実際はさらに細分可能であった。これは中世～近世以降の間に形成された耕作土とみられる。このうち4層の上面では、壇上に近世以降の磁器碎片を含むピットや南北方向に走る小規模な溝などを検出している。統いて10～12層は瓦器椀を作りもので、平安後期頃以降の形成が考えられる。12層から13層にかけて瓦器椀を包含するピット1基を検出している。13層の灰黒色シルトは弥生時代の遺物を含む遺物包含層であることから、その直下暗灰色極細粒砂層（14層）は弥生時代の遺構検出面に相当するものとみられるが、今回は調査範囲の制約もあり遺構は確認されなかった。

今回の調査は、本調査の契機となった確認調査の成果に基づき、4層ならびに10層上面をそれぞれ第1面、第2面と呼称し調査を実施しているが、第1面は時代等を考慮し今回の報告では割愛した。

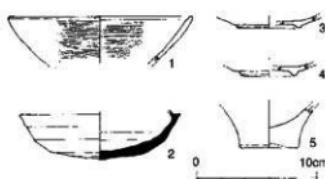
## (3) 検出した遺構

第2面検出の遺構はすべて溝状遺構であり、調査区南壁部分を基準にすると少なくとも10本（溝1～溝10）は確認できる。なお調査区北半部検出の溝は、その多くが南半部の溝1～10に対応するものとみられるが、反転調査の影響により溝1以外の対応関係が不明確なものとなっている。溝2～溝10は幅10～30cm、深度が5cm以下の非常に浅いものであり、しかもほぼ一定の間隔で平行に伸びていることから、これらは耕作行為によって生じた痕跡とみられる。一方溝1は他の溝と同様南北方向に走るもの、検出幅80cm、深度約30cmをはかるもので、他の溝とは区別されるべきものである。埋土は灰色極細粒砂～シルトを主体とするもので、観察の結果、常時帶水の状況下にはなかったようである。出土遺物は稀薄であったが、溝1埋土から出土の瓦器椀が13世紀代の特徴を有することから、当該溝の埋没年代が13世紀代以降であることが推察され、他の溝群も同様の時期の所産であることが考えられる。

## (4) 出土遺物

出土遺物は遺物収納箱にして1箱分出土しているが、図化に耐えうるものとなると第15図に

### 3.まとめ



第15図 出土遺物 (1 : 4)

器は第1面検出の土坑から出土したものである。このように6世紀代（古墳時代後期）の遺物が混入されていることから、付近に当該時期の遺構が存在する可能性がある。5は弥生土器壺または甕の底部とみられる。内外面ともに摩滅が著しいため器面調整は不明である。

なお弥生時代の遺物包含層（13層）出土の土器片は、すべて碎片のため固化し得なかったが、器面調整を観察する限りタタキがみとめられないことから、弥生中期またはそれ以前の所産であることが考えられる。

### 3.まとめ

今回の調査は非常に限られた調査範囲ではあったが、貴重な調査成果が得られた。主な成果として以下のことが挙げられる。

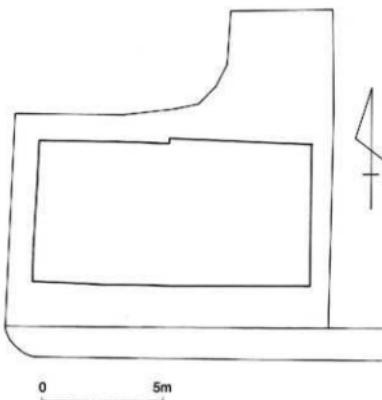
まず第2面では建物に関連する遺構は確認されず、耕作行為によって生じたとみられる小溝群が多数検出されたことから、13世紀代の調査地付近が居住地ではなく耕作地であったことが考えられる。

次に弥生時代の遺物包含層が確認されたことで、調査地付近も弥生集落の一角であったことが明らかになった。今回の調査地から南東方向のところが弥生時代中期集落の中心地とみられ、竪穴住居や方形周溝墓が多数確認されているが、今回は明確な遺構はみとめられず、遺物の出土量も少量であったことから、調査地付近は集落の中心地からやや離れた縁辺部であった可能性が高い。小曾根遺跡における弥生集落の盛衰については上記の結果を踏まえつつ、調査地から北西方向で確認されている弥生後期～終末期の集落との関連も今後検討していかねばならないであろう。

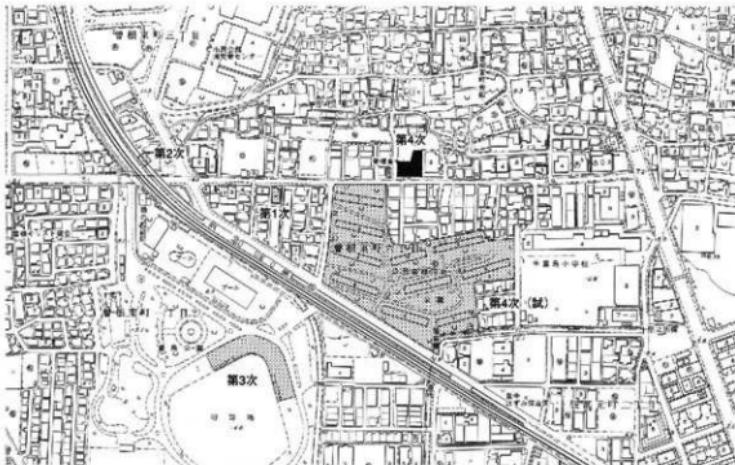
## 第IV章 豊島北遺跡第4次調査

### 1. 調査の経緯

当調査区は、曾根東町5丁目82-1に所在する。平成19年4月16日に、共同住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出され、これを受けて平成19年5月14日に確認調査を実施した。この結果、現地表下160cmのところで遺物包含層を、また基盤層上面において遺構を確認した。計画中の建物は、これら遺構面を著しく損壊することから、記録保存の必要性が生じた。以上をふまえ、施主・建築業者と協議を行ったところ、平成19年6月7日から7月31日の日程で、建築範囲を対象に本調査を実施することになった。なお、当事業は、調査経費の一部を補助事業の対象としている。



第16図 調査範囲図（1：200）



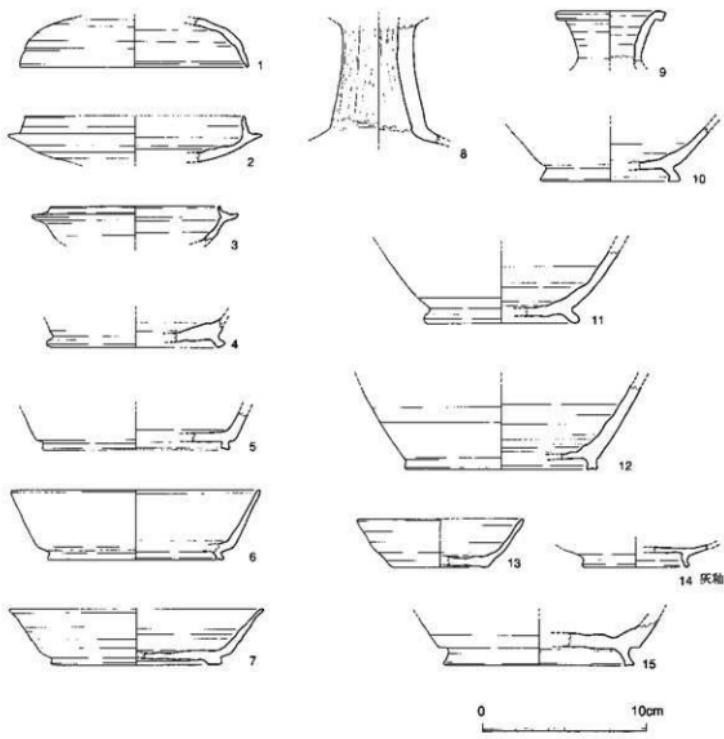
第17図 調査地位置図（1：5,000）

## 2. 調査の概要

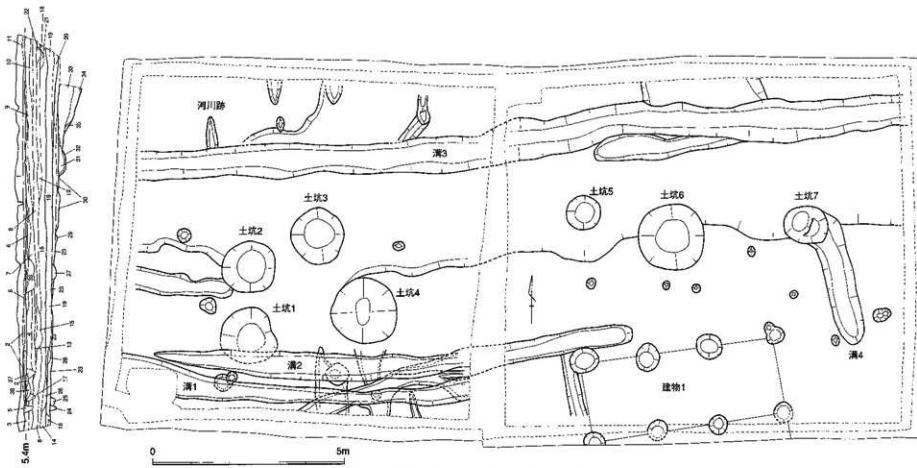
### （1）基本層序

当調査区では、現地表下1.65mのところで遺構面の最高部を確認した。この間、宅地造成に伴う整地土、旧耕作土、古代～近世に堆積した水成層、そして古墳時代～古代の遺物包含層が堆積する。

このうち、古代～近世の水成層は上から順に褐色・黄灰色・にぶい黄褐色細粒砂の3層程度に大別できる。これらの堆積層の上面において、水路と考えられる遺構が壁面断面で確認できることから、各時期に耕地として利用されたものと言える。また、古墳時代～古代の遺物包含層は、黄灰色シルト層（上層）と暗灰色中粒砂・極細粒砂層（下層）に大別できる。上層は遺物の出土量が少なく、また上面から掘削された遺構も水路に限定されることから、耕地とし



第18図 包含層出土遺物 (1 : 3)

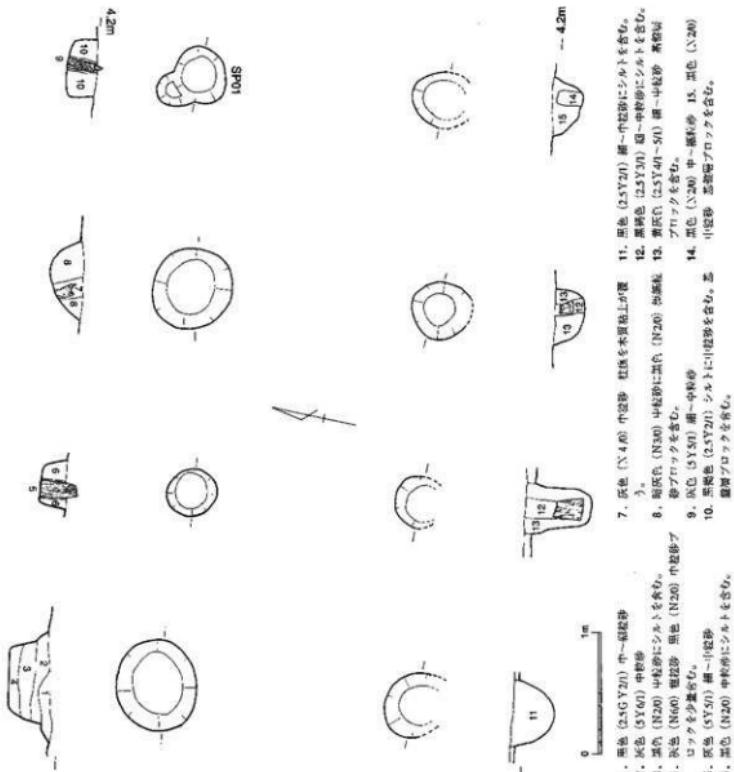


第19図 調査区平面・断面図 (1:100)

1. 細作土
2. 楊灰土 (5YR 5.5/1) 細粒砂
3. 淡黃色 (2.5Y 7/3) 細粒砂
4. 楊灰土 (10Y R 6/1) 細粒～細粒砂
5. 稲穀
6. にぶい黄褐色 (10Y R 6/1) 細粒～細粒砂
7. 黄褐色 (2.5Y 6/2) 粗～細粒砂
8. にぶい黄褐色 (10Y R 5/3) シルト～細粒砂 細粒砂を含む。
9. 黄褐色 (2.5Y 6/1) シルトに細～中粒砂を含む。
10. 黄褐色 (2.5Y 5/2) シルト～粗粒砂
11. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) シルト 中粒砂を含む。
12. 黄色 (5Y 6/1) 細粒砂～シルト 灰～土器碎片を極少量 含む。
13. 黄褐色 (10Y R 6/2) 細～中粒砂
14. 黄褐色 (2.5Y 5/1) シルトに細粒砂を含む。
15. 淡黄褐色 (2.5Y 5/2) 細粒砂 中粒砂を含む。
16. 黄褐色 (2.5Y 5/1) 中粒砂 土器片を含む。
17. 黄褐色 (2.5Y 6/1) シルト～細粒砂 石を少量含む。
18. にぶい黄褐色 (10Y R 5/3) シルト
19. 黄褐色 (2.5Y 5/1) 中粒砂 土器片を含む。
20. 淡黄褐色 (2.5Y 5/2) 細粒砂 中粒砂を含む。
21. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 細粒～細粒砂
22. 黄オリーブ色 (5Y 5/3) 細～細粒砂
23. 淡黄褐色 (N3.0) 中粒砂にシルトを含む。層下部は土質変化している。南部は青灰色 (10B G 5/1)
- 24・25. 黄色 (N4.0) 中粒砂
26. 黄褐色 (2.5Y 4/1) シルト～細粒砂
27. 灰色 (5Y 5/1) 細～細粒砂
28. 暗青灰色 (10B G 4/1) 中粒砂にシルトを多く含む。
29. 暗灰色 (N3.0) 中粒砂
30. 黑色 (N2.0) シルトに中粒砂を含む。
31. 暗灰色 (N3.0) シルト
32. 暗灰色 (N3.0) シルト 基盤層ブロックを多く含む。
33. 灰色 (N 5.0～6.0) シルト
34. 黑色 (N2.0) 細粒～細粒砂
35. 灰色 (N6.0) 細粒砂
36. 黄褐色 (2.5Y 3/3) 細粒～中粒砂 粗粒砂、塵を含む。
37. 橙灰色 (10Y R 6/1) 細粒砂～シルト
38. 黄灰色 (2.5Y 6/1) 細粒～細粒砂

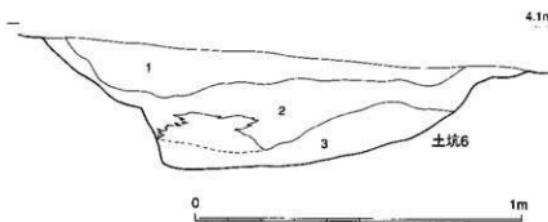
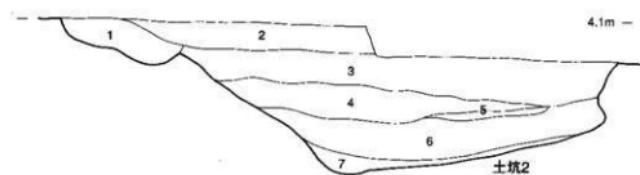
て利用された可能性がある。一方、下層からは掘立柱建物に伴う柱穴が掘削され、また同層から出土した遺物も多いことから、集落の展開に伴って堆積した可能性が考えられる。なお、下層は中粒砂・極細粒砂層の2種に区分でき、調査区南側は中粒砂層が、北部は極細粒砂層は堆積する。

これは、調査区北端で河道跡を検出したとおり、調査区の南端から北側では約35cmの高低差があることに起因するものと考えられる。なお、下層からは、第18図に挙げる遺物や、瓦・蜻蛉などが出土した。これらの遺物から、下層が7~10世紀にかけて堆積したものと考えられる。



第20図 建物1平面・断面図 (1:40)

## 2. 調査の概要



第21図 土坑2・6断面図 (1:15)

### 土坑2

1. 黒色 (N40) 中～細粒砂 同色シルトブロックを含む。
2. 砂灰色 (N30) 中粒砂 黒色 (N40) 中粒砂ブロックを多く含む。
3. 砂灰色 (N30) 中粒砂に細粒砂を含む。
4. 黑色 (N40) 中～細粒砂 (窓竈等流入土)
5. 砂灰色 (N30) シルト～粗粒砂
6. 黑色 (N40) 中粒砂に細粒砂を含む。
7. 墓オリーブ灰色 (2.5Y4/1) 中粒砂 局所的に黒色 (N20) シルトを含む。

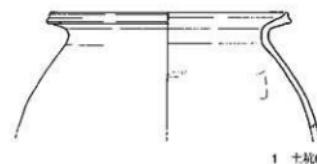
### 土坑6

1. 黒色 (2.5Y2/1) シルトに細粒砂を含む。
2. 黄灰色 (2.5Y4/1～5/1) シルト 壁内側は、基盤層が流入し、ラミナを形成する。
3. 黑褐色 (2.5Y3/1) シルトに細粒砂を含む。

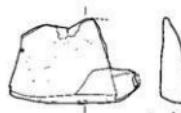
### (2) 検出した遺構と遺物

当調査区では、包含層および基盤層上面において遺構を検出した。以下、これら検出した遺構について、その概要を述べることにする。

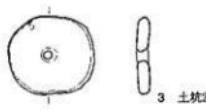
**建物1** 調査区南部で検出した南北1間 (2.1m) 以上、東西3間 (5.0m) の圓柱建物である。柱の配置からみて、南辺に庇が付くものと考えられる。建物の主軸方向は、N-82°-Eである。検出した8基の柱穴のうち、6基には柱材が残存しており、これらの柱から東西辺の柱芯間は1.65mとなる。当建物は、出土した遺物から7世紀代に位置付けられる可能性



1 土坑6



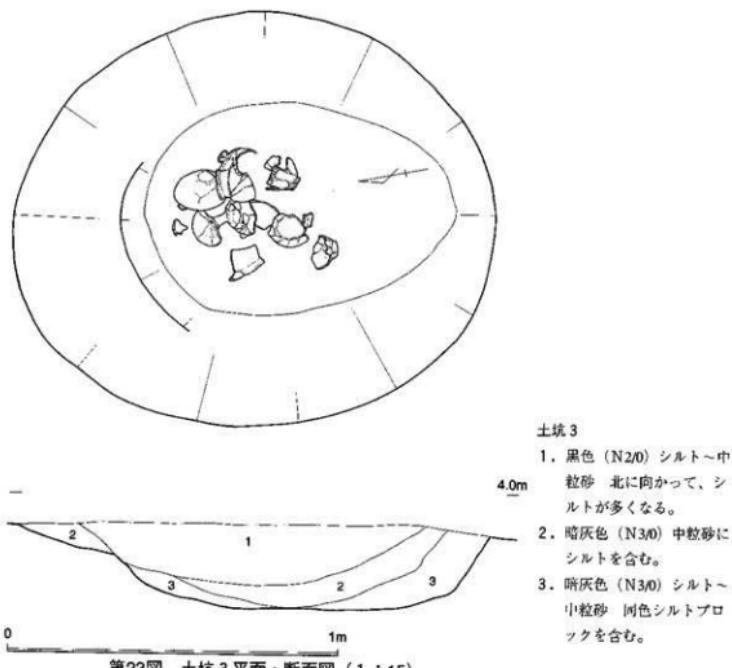
2 土坑2



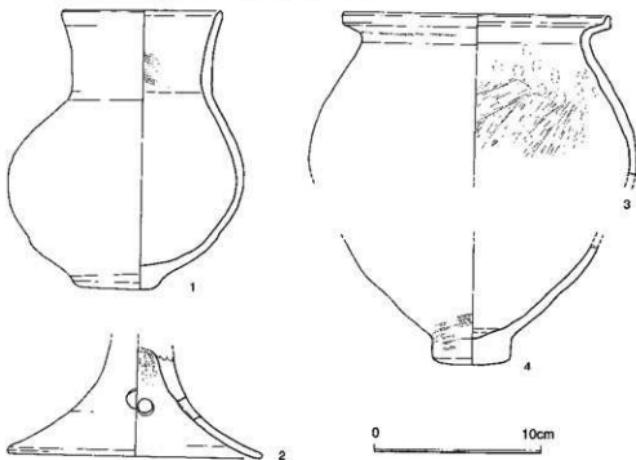
3 土坑2

0 10cm

第22図 土坑2・6出土遺物 (1:3)

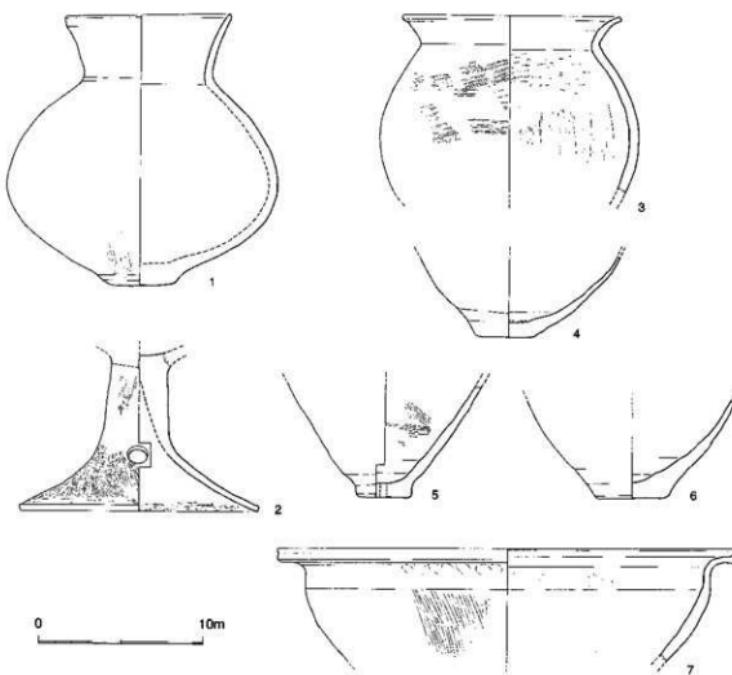


第23図 土坑 3 平面・断面図 (1 : 15)



第24図 土坑 4 出土遺物 (1 : 3)

## 2. 調査の概要



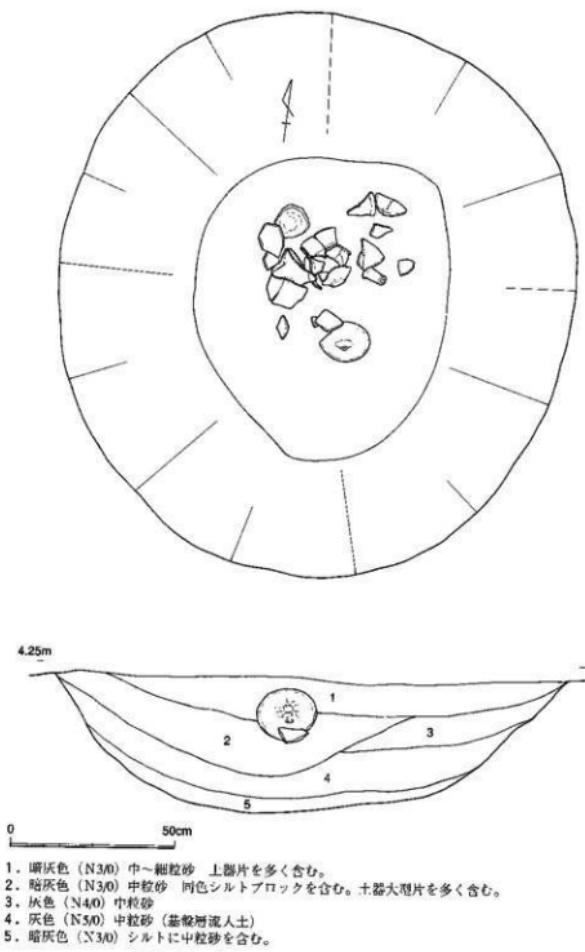
第25図 土坑3出土遺物 (1 : 3)

があるものの、包含層下層から掘削されていることから、それよりも新しくなる可能性が考えられる。

**土坑1** 東西長1.4m、南北長1.0m、深さ0.25mをはかる平面円形状を呈する大型土坑である。埋土は基本的に自然堆積層であるが、下層には基盤層の2次堆積が認められる。なお、出土した遺物は細片に限られることから、遺構の時期は確定できない。ただ、周辺に点在する同様の大型土坑が弥生後期～終末期前半に求められる。よって、当該期の所産になる可能性が考えられる。

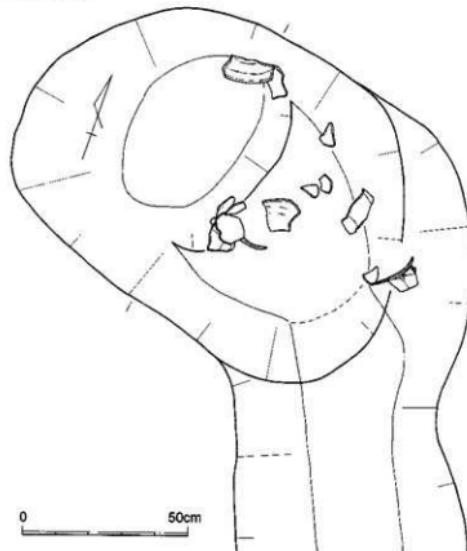
**土坑2** 直径1.2m、深さ0.35mをはかる平面円形状を呈する土坑である。埋土等は、土坑1と共に通する。土坑からは、土製紡錘市、砥石などが出土しているが、土器は細片が多く、時期は確定できない。ただ、周辺の大型土坑と同じく、弥生後期～終末期前半の所産になる可能性が考えられる。

**土坑3** 南北1.4m、東西1.25m、深さ0.25mをはかる、平面円形状を呈する大型土坑である。



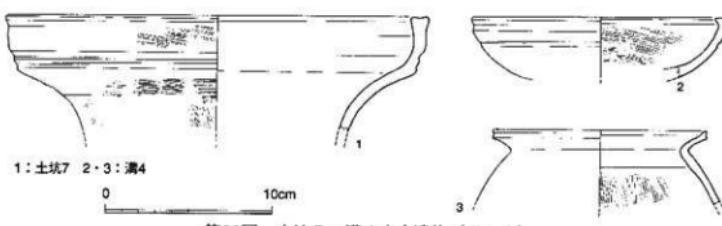
第26図 土坑4平面・断面図 (1:15)

2. 調査の概要



第27図 土坑7平面・断面図 (1:15)

- 1. 黒色 (N2/0) 細粒砂シルト
- 2. 鵝灰色 (10Y R 6/1) 細粒砂と黒褐色 (10Y R 3/1) シルトのラミナ

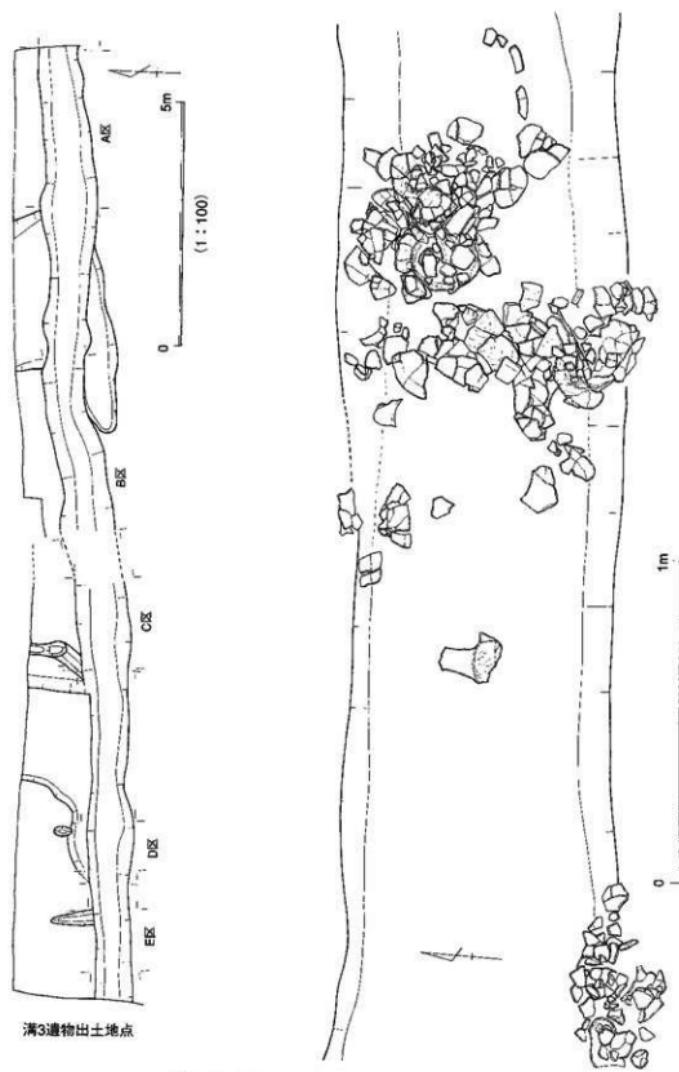


第28図 土坑7・溝4出土遺物 (1:3)

上層から、弥生土器がまとまって出土した。これ以外の埋土に関する特徴は、土坑1と共に通する。なお、出土した遺物から、土坑3は弥生時代終末期前半代と考えられる。

**土坑4** 南北1.4m、東西1.7m、深さ0.4mをはかる、平面指円形状を呈する大型土坑である。上層から、弥生土器がまとまって出土した。これ以外の埋土に関する特徴は、土坑1と共に通する。なお、出土した遺物から、土坑4は弥生時代終末期前半代と考えられる。

**土坑5** 直径0.9m、深さ0.15mをはかる、平面指円形状を呈する大型土坑である。出土した



第29図 溝3 A区遺物出土状況 (1 : 15)

## 2. 調査の概要

遺物は細片にとどまり、時期は確定できないが、他の土坑と同時期と考えられる。

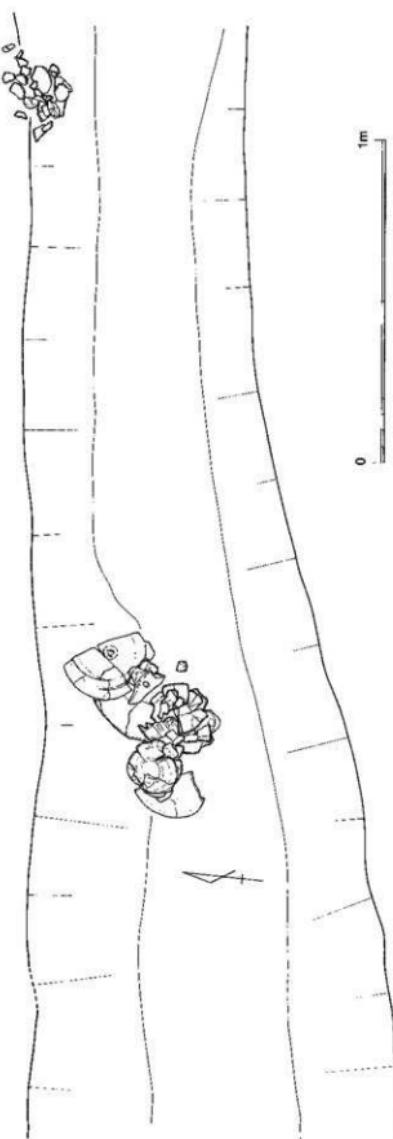
**土坑6** 直径1.7m、深さ0.45mをはかる、平面円形状を呈する大型土坑である。埋土等の特徴は、土坑1と共通する。なお土坑6は、出土遺物の特徴からV様式の所産と考えられる。

**土坑7** 南北幅0.9m、東西長1.45m、深さ0.3mをはかる、椿円形状の平面形を呈する土坑である。土坑の東側は溝1と重複するが、埋土に大きな差はない、また同一個体の可能性が考えられる遺物も出土していることから、同時期に埋没した可能性が考えられる。

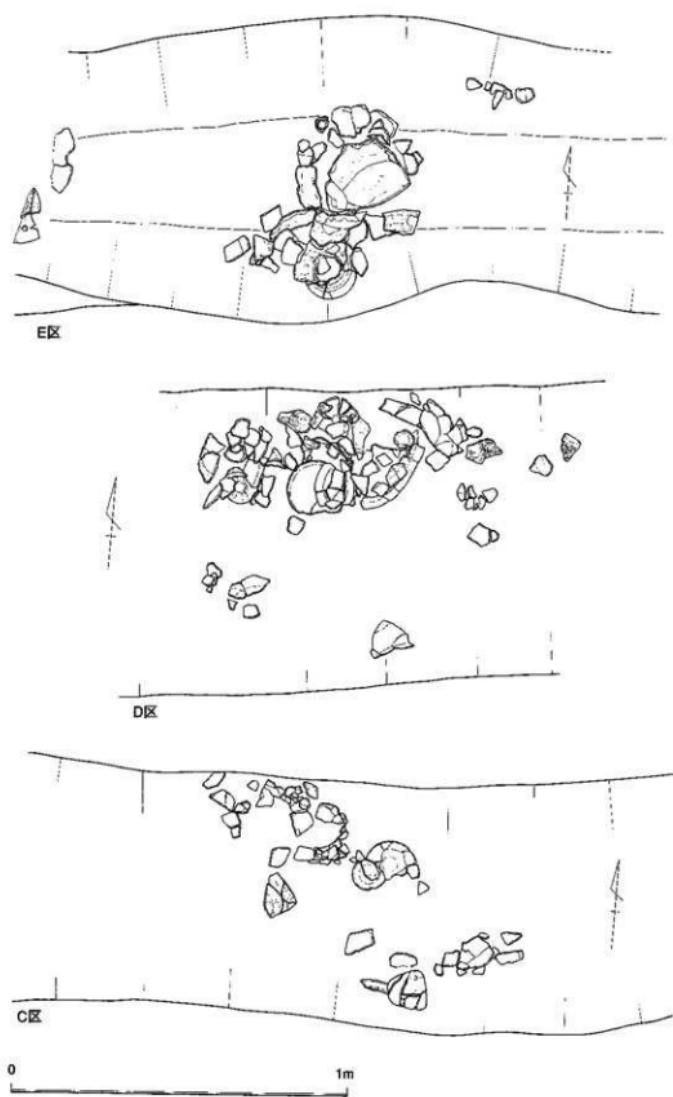
なお、埋土中層付近から、第28回に挙げる土器が出土していることから、森田編年でいうIV様式の所産と考えられる。

**大型土坑について** 当調査区からは大型土坑6基を検出したが、これらの土坑は平面円形状を呈し、下層埋土に基盤層から流出した2次堆積土を多く含むことで共通する。基盤層の2次堆積は、土坑内において水位の急激な変化があったことを物語り、土坑が井戸として機能したことと示唆させる。一方、土坑の掘削深度は浅いもので15cmと、後世の削平を加味しても井戸とするには浅すぎるものも認められる。ただ、調査区が南から北側の河道に向けて傾斜する地形的特徴と、地下水位の高さを合わせて考えると、水源の確保にそれほどの深度を要しなかったとも理解できる。よって、大型土坑は井戸として機能したものと想定する。

溝1・2 調査区の南端部で検出した

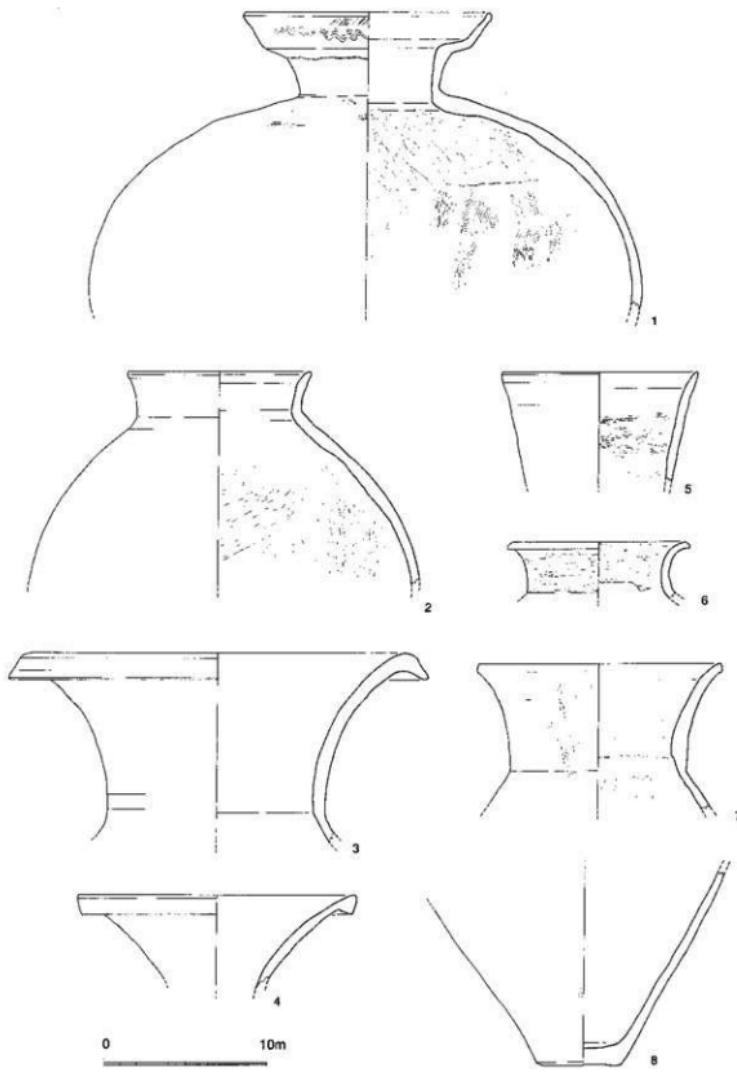


第30図 溝3 B区遺物出土状況 (1 : 15)

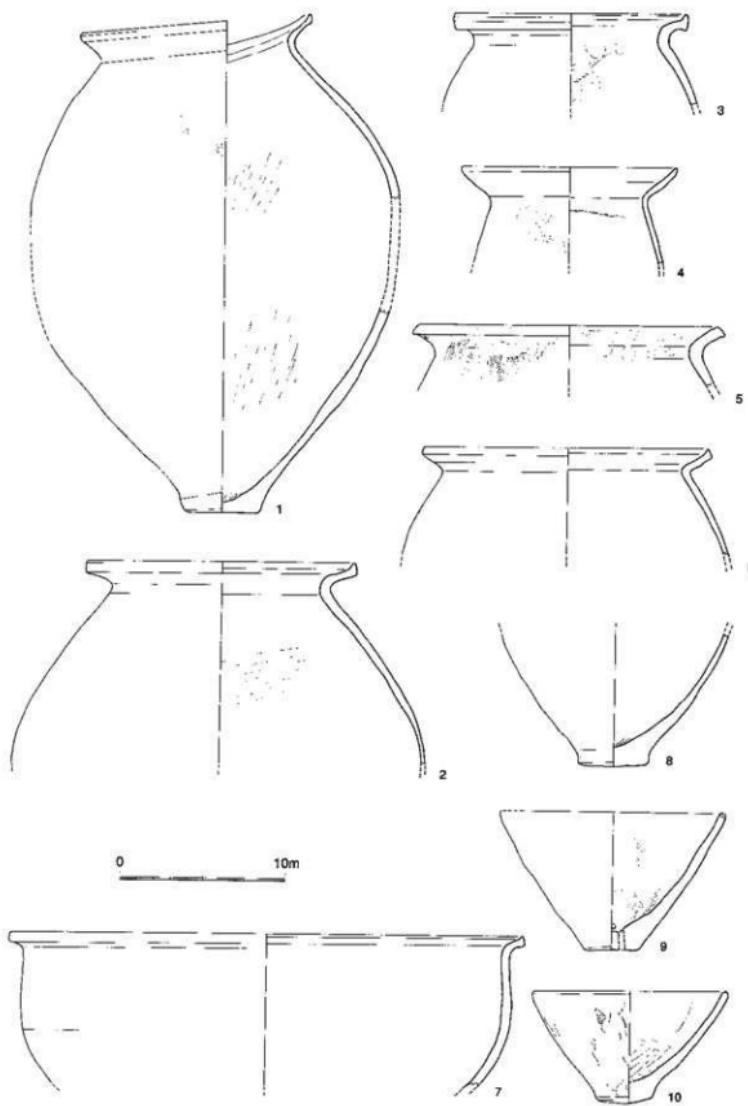


第31図 溝3 C~E区遺物出土状況 (1 : 15)

2. 調査の概要

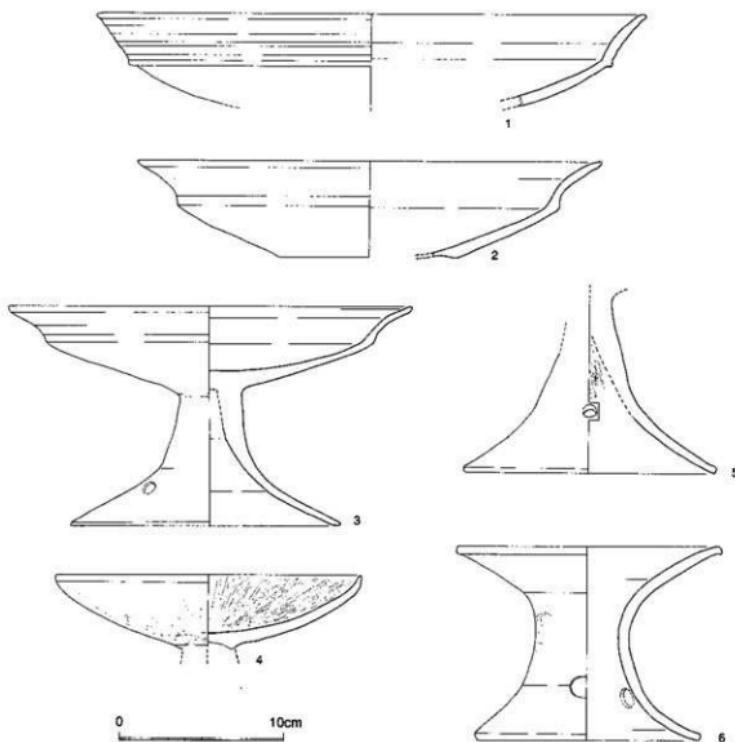


第32図 溝3出土遺物 1 (1 : 3)



第33図 溝3出土遺物2 (1 : 3)

## 2. 調査の概要

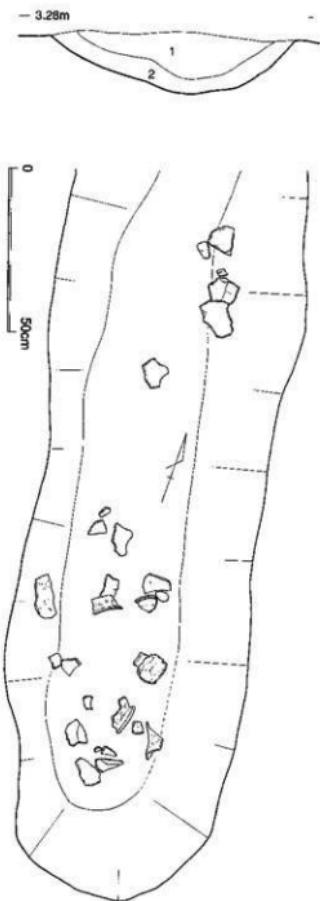


第34図 溝3出土遺物3 (1 : 3)

幅0.4m、深さ5cm前後の溝である。ほぼ水平に掘削されること、また当調査区南側が豊島郡条里南条一里と仲条十一里的境界になることから、条里境に伴う可能性が考えられる。なお、溝から出土した遺物は、下層包含層からの混入品で占められており、時期は確定できない。しかし包含層上層の上面から掘削されていることから、10世紀以降の所産となる。

溝3 調査区北側の河道南岸肩部上に掘削された溝で、幅0.7~1.0m、深さ15cm前後を有する。最下層は基盤層の2次堆積土、中層~上層にかけては黒褐色粘土・灰色粘土が堆積する。下層上面から中層にかけて、弥生土器が数ブロックにまとまって出土した。出土した遺物には完形品やそれに近いものが多く、人為的に廃棄されたものと考えられる。

遺物の保存状態は極めて悪く、外面の調整が把握できるものは少ない。また、遺物の時期は一部IV様式に帰属するものもあるが、V様式からVI様式前半を中心とし、時期幅が認められる。



1. 黒色（N20）細粒砂～シルト  
2. 暗灰色（10YR6/1）細粒砂と黒褐色（10YR3/1）シルトのラミナ

第35図 溝4平面・断面図（1：15）

時代中期末から終末期前半に比定される。これは、当調査区西方に展開した集落が弥生時代中期に出現した可能性を示すものと注目される。これまで、豊中市南部の沖積地における弥生集落の本格的な展開は、弥生時代終末期にはじまると考えられてきた。しかし、今回の発掘調

これは、各ブロックの廃棄時期を反映したものと考えられる。なお、第34図1の二重口縁甌は、当地域における出現期の事例として注意される。また、第34図3・4は河内産の搬入品である。

溝4 幅0.8m、深さ10cm、全長2.9mをかる。北端部には土坑7が掘削されている。土坑7とは、埋土・遺物の出土状況から、同時期に埋没したものと判断できるが、どのように機能したのかは不明である。

集墳群 土坑5の東辺で、10cm大の玉石が直径30cmの範囲で4個体ほどまとまって出土した。造構の掘方等は確認できないことから、基盤層上面に意図的に放棄された可能性が考えられる。性格・時期等については、不明である。

### 3.まとめ

今回の調査区では弥生時代中期末以降の大型土坑・溝と7世紀以降の建物・条里溝等を確認した。これらの造構の時期は、弥生時代と古代に大別できることから、それについて調査成果の所見を述べることにする。

**弥生時代** 弥生時代の造構としては、これまで述べてきたように、大型土坑が挙げられる。しかし、集落に直接関連するような柱穴や堅穴住居等の造構は確認されていない。また、調査区北端では、埋没河川が検出されており、また大型土坑が井戸として機能したことを考えるならば、集落周辺の水場的な位置にあったものと予想される。なお、当該期の集落は既往の発掘調査から、当調査区の西方に展開したことが判明している。

一方、これら大型土坑および溝の時期は、弥生時代中期末から終末期前半に比定される。これは、当調査区西方に展開した集落が弥生時代中期に出現した可能性を示すものと注目される。これまで、豊中市南部の沖積地における弥生集落の本格的な展開は、弥生時代終末期にはじまると考えられてきた。しかし、今回の発掘調

### 3.まとめ

查で、豊島北遺跡の出現が後期以前に遡ることで、豊中台地裾野における開発がかなり早い段階で本格化することが見通される。よって、各集落の展開やこれに伴う平野部の開発は一律には論じられず、開発が段階的に進行したものと見通した上で、個別集落の出現と展開を厳密に検討する必要が生じた。

**古代** 今回検出した遺構は、建物1に限定される。建物1は出土遺物から7世紀以降の所産となる。これとほぼ同時期の建物群が、裾野遺跡第4次調査で確認されており、建物1はこの建物群と一連の集落を構成する可能性が考えられる。なお、集落の時期については明確ではないものの、包含層下層の遺物から7世紀～10世紀頃と考えられる。10世紀以降の遺物はほとんど認められないことから、おそらくこの時期に集落は解体し、豊島北遺跡第3次調査区にみる散村へと変化するものと考えられる。

一方、包含層下層遺物の中には、瓦が若干数含まれていた。周辺に古代寺院は確認されていないが、丘陵裾野部にあたることから、豊中台地縁辺部に存在した可能性はあろう。これまで、古代寺院の存在は、金寺山廃寺以外に、北条遺跡第5次調査区および鳥田遺跡第1次調査区付近に想定されている。これら遺跡の周辺には中世に遡る寺院が存在することから、これら中世寺院との関連も注意する必要がある。なお、当調査区北東には、西琳寺という寺院があり、震災復旧工事の際、本堂の礎石に中世後期の大型五輪塔が転用されていたことが判明している。

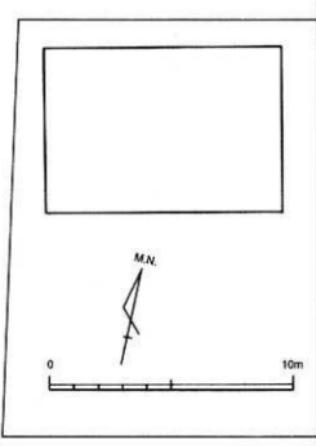
以上、当調査区周辺における各時期の集落については、まだ十分に解明されていない。しかし、今回の調査で示したとおり豊中市南部における開発等の問題に新たな所見を提示するなど、今後の調査によって市南部の歴史像を考える上で重要な手がかりが得られるものと期待される。よって、周辺における開発については、より慎重に行われることを提言したい。

## 第V章 本町遺跡第34次調査

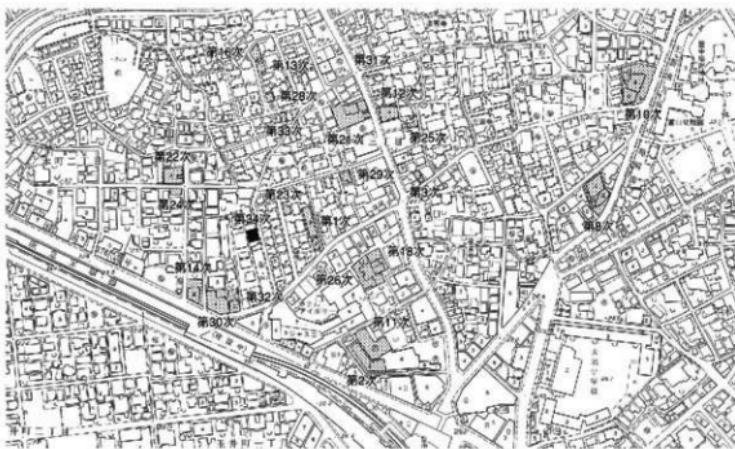
### 1. 調査の経緯

当調査区は、豊中市本町2丁目14-1に所在する。平成19年6月6日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて平成19年7月5日に確認調査を行ったところ、申請地の西半部では地表下約45cmで須恵器片等を含む遺物包含層を確認し、東半部では遺物包含層が耕作によって削平を受けていたものの、地表下約67cmで遺構面を確認した。個人住宅建設に伴う基礎掘削時の地盤改良深度から遺構の損壊が免れないことが判明したため、協議の結果、本調査を実施することとなった。

調査は平成19年7月23日から平成19年8月18日にかけて実施し、調査面積は建築対象面積から62.0m<sup>2</sup>とした。

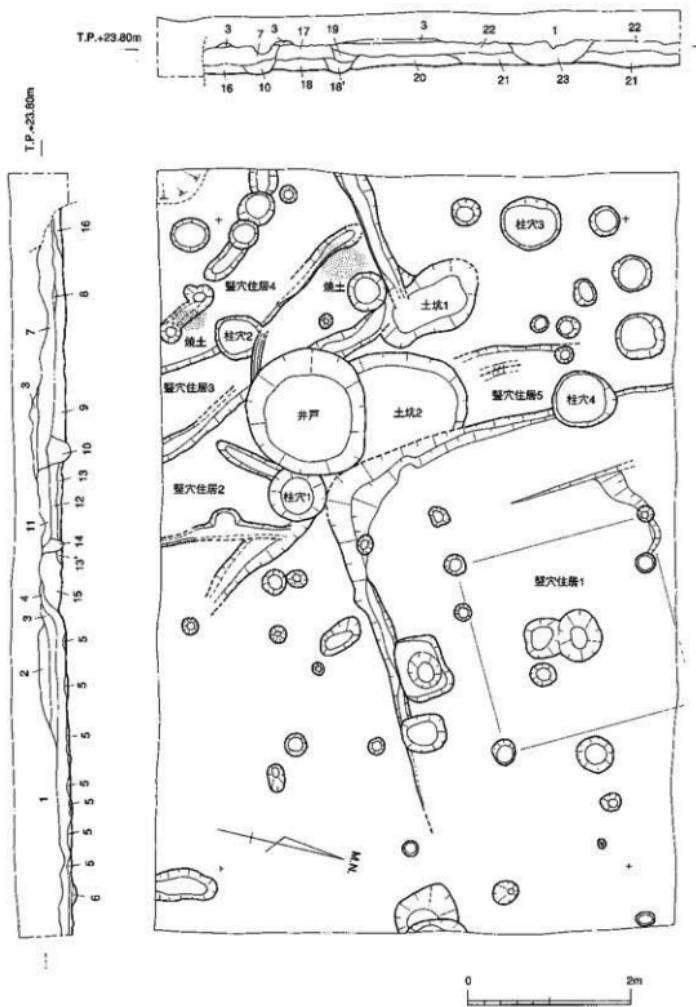


第36図 調査範囲図（1：200）



第37図 調査位置図（1：5,000）

2. 調査の概要



第38図 調査区平面・断面図 (1 : 60)

## 【第36回の土色と土質】

1. 現代の実地土及び土壌。
  2. 黒灰色 (2.5Y6/1) シルト混中粒砂 (～細粒砂)。約30cm以下の層を5%程度含む。
  3. 墓窓灰土 (2.5Y3/2) シルト混中粒砂 (～細粒砂)。約30cm以下の層を5%程度含む。
  4. 黑灰色 (2.5Y6/1) シルト混中粒砂 (～細粒砂)。約30cm以下の層を5%程度含む。墓窓層ブロックを若干含む。
  5. 黑灰色 (2.5Y6/1) シルト混中粒砂 (～細粒砂)。約30cm以下の層を30%程度含む。墓窓層ブロックを40%程度含む。
  6. 墓窓灰土 (2.5Y5/2) 細粒 (～細粒砂)。溝状の遺構埋土。
  7. 黒褐色 (10YR3/1) シルト (～細粒砂)。約3~5cmの網眼を多く含む。灰白色 (5Y8/2) 細粒砂ブロックを5%程度含む。住居の埋土。
  8. 黄灰色 (2.5Y7/2) 細粒砂 (～シルト) のびが水準に累積。上部の崩壊あるいは包埋層の再堆積層。
  9. 黑褐色 (10YR3/1) シルト (～細粒砂)。約30cm (2.5Y8/2) 細粒砂ブロックを5%程度含む。住居跡の初期空隙層。
  10. 黑褐色 (10YR3/2) シルト (～細粒砂)。約3cm以下の網眼を50%含む。住居層ブロックを10%程度含む。住居層埋土の可能性が高い。
  11. 黑褐色 (10YR3/1) シルト (～細粒砂)。約5cm以下の網眼を50%含む。墓窓層ブロックを5%程度含む。住居の埋土。
  12. 黑灰色 (2.5Y6/2) ~灰白色 (2.5Y7/4) シルト (～細粒砂)。粘性が強い。黑褐色 (10YR3/1) シルトと墓窓層ブロックを15%程度含む。
  13. 浅灰色 (2.5Y7/4) シルト (～細粒砂) 及び細粒砂 (10YR3/1) シルトと墓窓層ブロックの混合層。12層とともに住居床面の整地層。
  15. 13層と同様。黒褐色 (先付) する居住層の表面整地層。
  14. 上部は1層と近似。下部は浅灰色 (2.5Y7/4) 刹土 (～シルト)。住居層埋土上の可能性が高い。
  15. 黑褐色 (2.5Y3/1) シルト (～細粒砂)。約10cm以下の網眼を多く含む。墓窓層ブロックを5%程度含む。上半部はど色調現るく礁が少ない。
  16. 灰白色 (2.5Y8/2) 黃褐色砂ブロックの堆积に黒褐色 (10YR3/1) シルト (～細粒砂) を30%程度含む。住居床面の整地層。
  17. 黑褐色 (10YR3/2) シルト (～細粒砂)。約20cm以下の網眼を若干含む。墓窓層ブロックを若干含む。
  18. 黑褐色 (10YR3/1) シルト (～細粒砂)。約5cm以下の網眼を若干含む。灰白色 (2.5Y7/2) シルトブロックを5%程度含む。住居床面の整地層。
  19. 18層と同様。墓窓層の有無がない。住居層埋土の可能性高い。
  20. 浅灰色 (2.5Y8/4) ~灰白色 (2.5Y8/2) シルト (～細粒砂)。灰化物を若干含む。
  21. 20層と近似するがやや色調晦い。22層ブロックを10%程度含む。黒褐色 (先付) する前住居の床面整地層。
  22. 黑褐色 (10YR3/1) ~黒褐色 (10YR3/1) シルト (～細粒砂)。約20cm以下の網眼を多く含む。墓窓層ブロックを若干含む。
  23. 黑色 (10YR2/1) 細粒砂 (～シルト)。約10cm以下の網眼を多く含む。下部に墓窓層ブロック多い。上状の遺構埋土。
- ※墓窓層は前面区段では耕作時にシルト層が削除され堅密な砂疊層が表土に露出、西側は灰白色 (2.5Y8/2) ~浅黄色 (2.5Y7/4) シルト。洪積層上部の堆積層である。

## 2. 調査の概要

## (1) 基本層序

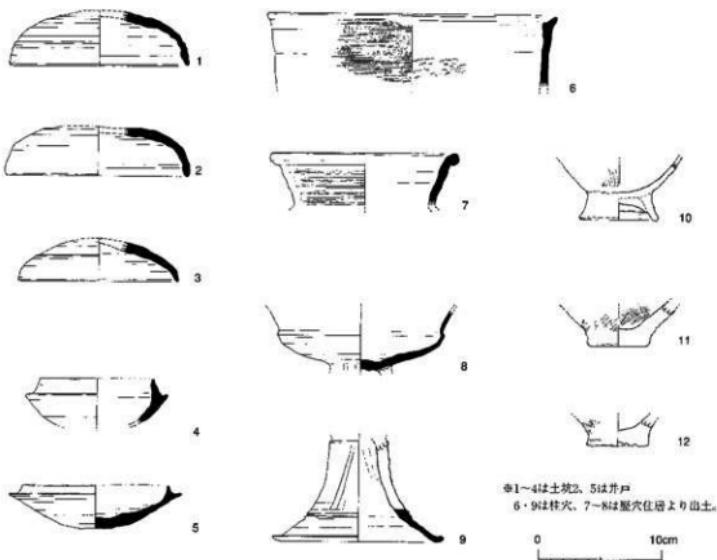
調査区内は地表下約40cmまでが現代の堆土で整地されている。東半部では近～現代の耕作行為によって約60~70cm下部の洪積砂層まで削平が進行し、かろうじて遺構の痕跡がたどれる状況である。これに対して西半部では耕作単位による段差が設定されたことにより、削平深度が浅く、盛土直下に黒褐色系の遺物包含層及び遺構埋土が良好に遺存していた。その反面、やや土壤化の進んだこれら黒褐色系の堆積土の上面では色調や土質が平準化し、各遺構の平面プランを検出することが極めて困難な状況であった。西半部の基盤層は主として灰白色系のシルトであり、地表下約110cmで砂疊層に転じる（近世以降に掘削された井戸壁面で確認）。

## (2) 検出した遺構と遺物

当該調査で検出した主な遺構としては、柱穴（ピット状のものを含む）約50基、土坑3基、竪穴住居複数棟（壁疊状の遺構のみを含む）をあげることができる。柱穴のうち、大型のものは掘立柱建築を構成するものと考えられる。出土遺物は人半が古墳後期で6世紀中頃以降に属する須恵器群であるが、少量の弥生土器も含む。弥生土器は後期後半に属する甕、高杯等であるが、遺構との直接的な関係を明らかにできたものはない。後述する土坑が調査区内では最古の遺構であり、弥生後期に帰属するものである可能性が考えられる。

調査区東半部に位置する竪穴住居1は、住居の南西角を中心に南辺と西辺が検出されたが、東側は耕作で削平され、北側は調査区外のため、全容を明らかにはできなかった。復元される

### 3.まとめ



第39図 出土遺物 (1 : 4)

平面形はやや東西に長い長方形で、東西約5.5m、南北約5mを測る。主柱穴は北東を除いて3基が検出され柱間約2.4mを測り、各々が砂礫層にまで達する深度を有する。調査区南西側に複数の堅穴住居が重複して検出されたが、平面プランを明確にはできなかった。2箇所に焼土の集積が認められ、瓶片も出土していることから窓を伴っていたことがわかる。また、黄灰色のブロック土が層状に集積していたことから、壁面が上壁状に構築されていた可能性がある。堅穴住居群は6世紀中葉に成立し後半で廃絶したものと考えられる。堅穴住居が廃絶した後に掘立柱建物が建築され、大型の柱穴等が検出されるが、今回の調査区内ではその規格を明らかにはできなかった。概ね6世紀末頃までは掘立柱建物群も廃絶した可能性が高い。最古の遺構である土坑2は長方形のプランを持ち、土坑墓の可能性も考えられる。遺物はほとんど伴わないが弥生後期に帰属する可能性がある。

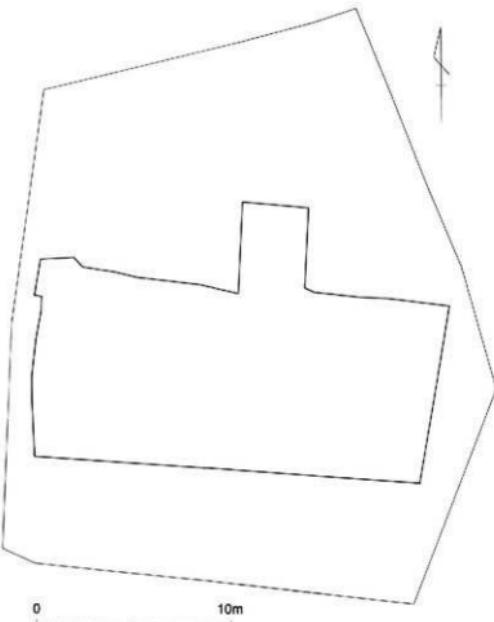
### 3.まとめ

今回の調査では、主として古墳後期の堅穴住居から掘立柱建物へと変化する集落の形態を周辺での調査事例と同様に確認できた。しかしながら、各住居の平面形や建物の規模等を明らかにできなかったため、隣接地等での今後の調査で確認していく必要がある。

## 第VI章 穂積遺跡第36次調査

### 1. 調査の経緯

当調査区は、服部元町1丁目118、118-2に所在する。平成19年6月19日に、共同住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出され、これを受けて平成19年8月9日に確認調査を実施した。この結果、現地表下75cmのところで遺物包含層を、また基盤層上面において造構を確認した。計画中の建物は、これら造構面を著しく損壊することから、記録保存の必要性が生じた。以上をふまえ、施主・建築業者と協議を行ったところ、平成19年8月27日から10月23日の日程で、建築範囲を対象に本調査を実施することになった。なお、当事業は、調査経費の一部を補助事業の対象としている。

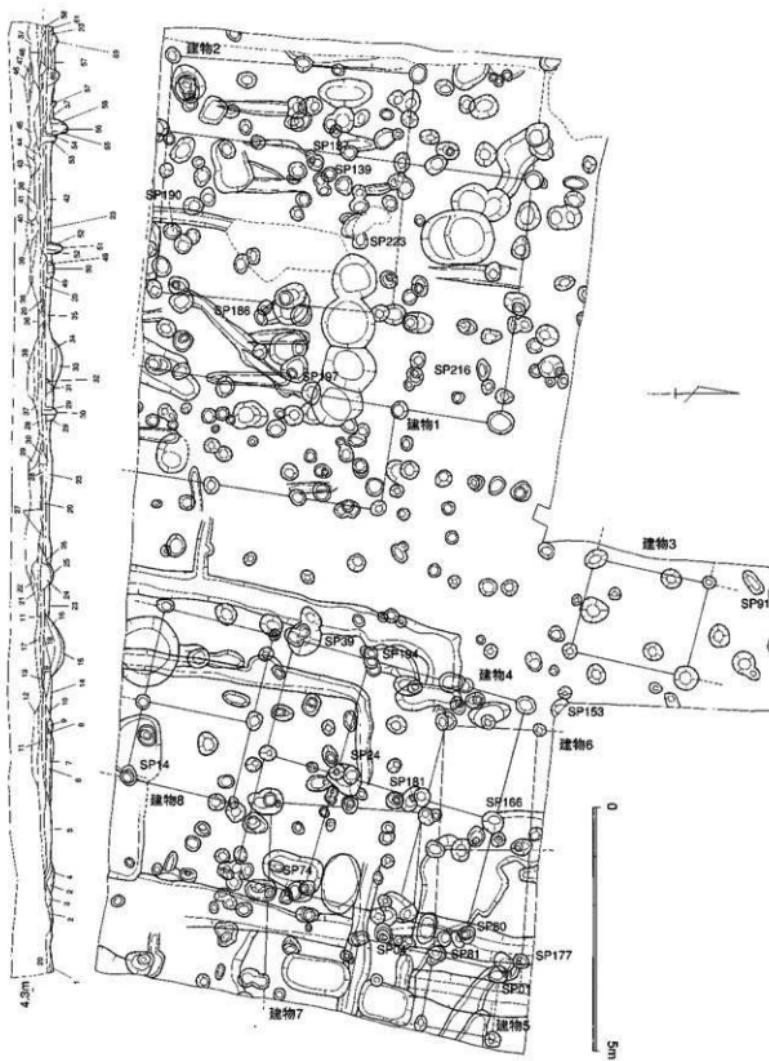


第40図 調査範囲図（1：250）

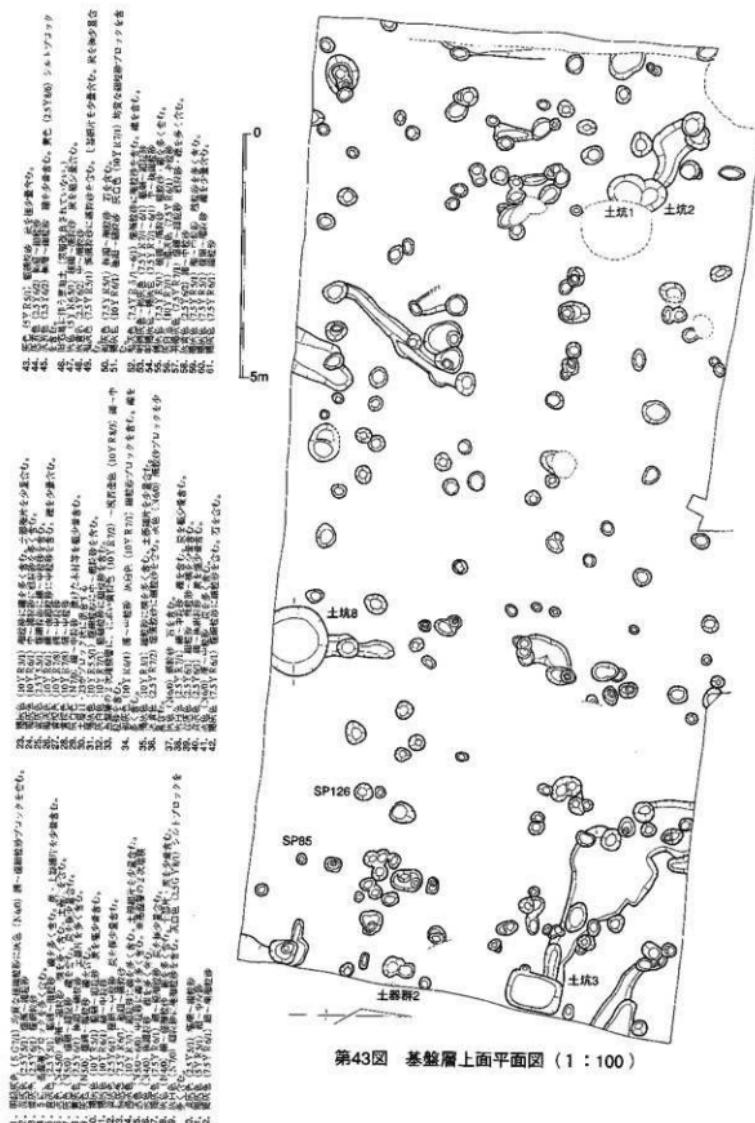


第41図 調査位置図（1：5,000）

2. 調査の概要

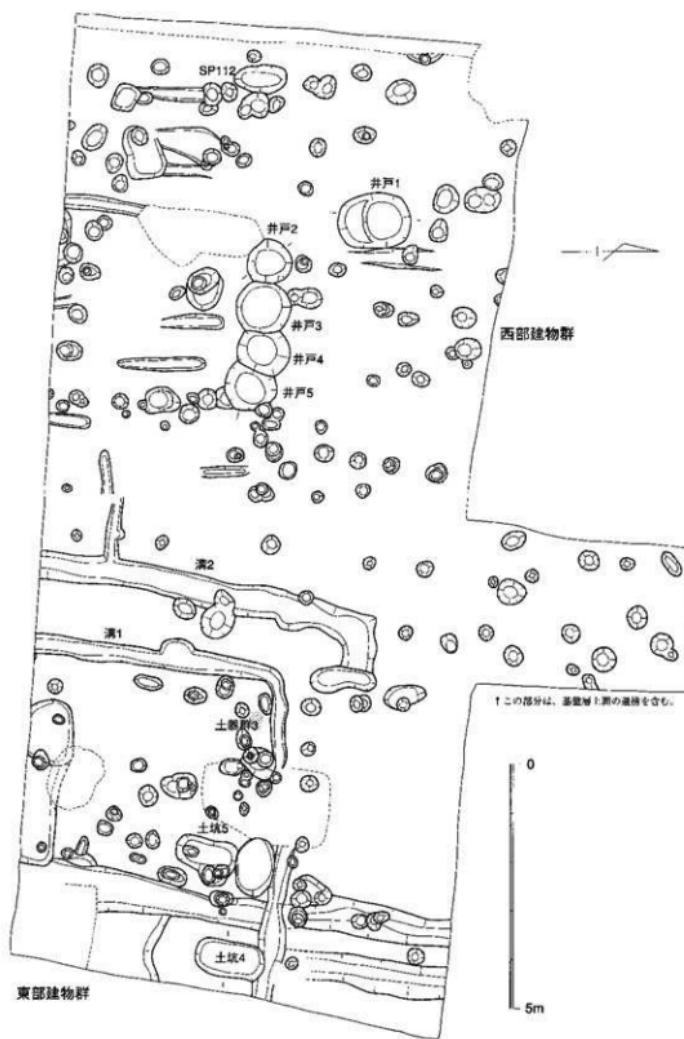


第42図 調査区平面・断面図（1：100）2面合成



第43図 基盤層上面平面図 (1 : 100)

## 2. 調査の概要



第44図 包含層上面平面図 (1:100)

## 2. 調査の概要

### (1) 基本層序

当調査区では現地表下75cmのところで包含層を、85cmのところで基盤層を検出した。ところで、調査区は服部村集落内にあって、長く宅地として利用してきた。このため、今回調査対象とした遺構面にいたる各層の上面からも遺構が掘削され、生活面を形成するものと考えられる。しかし、旧建物の解体により、現地表下40cmまでは表層地盤改良によって擾乱され、中世末期以降の遺構面ならびに遺構の様相は十分把握できなかった。

一方、地表下40cm以下については、黄橙色細～中粒砂層（28層）、褐灰色極細粒砂層（11層）、今回の調査で遺物包含層として扱った褐灰色砂礫層（14・23層）、そして基盤層の順に堆積する。このうち、28・11層は水成層で、11層の堆積時期は満2から15世紀後半以降となる。また、第5層は掘方が明確ではない土器群3の存在や、撿削面が明確に把握できない柱穴から、建物群の展開過程において形成したものと判断する。その堆積期間は明確にはできないが、12世紀中頃までと想定する。

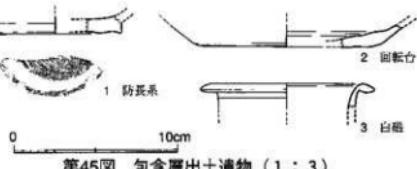
なお、今回の調査では包含層上面と基盤層上面の2面を対象としたが、各層の柱穴によって建物を復元されたことから、柱穴について上下層の時間差は設定しなかった。

包含層からは在地産の土器類と共に、第45図に挙げる特殊な遺物が出土した。このうち、1は防長系土師器碗の底部である。その特徴から、山口県西部のものと言え、瀬戸内水運と内陸流通を考える上で重要な資料となる。また、3の白磁四耳壺は小型品ではあるが、当調査区に展開した建物群の経済力を示す遺物となる。

### (2) 西部建物群の様相

建物1 東西3間（7.1m）、南北4間（7.7m）以上をはかり、面積は50m<sup>2</sup>を越える。北東角と中央部の柱穴がないが、総柱建物と言える。建物の主軸方向は、N-8°-Eである。建物の規模・構造から、西部建物群の主屋と考えられる。ただし、柱の付け替えに伴う柱穴の重複もないことから、建物の縦縦期間は短かったと考えられる。

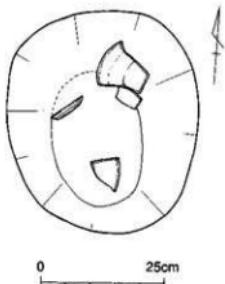
柱穴からは第47図1・2が出土した。このうち、1は和泉型瓦器碗II-2期の所産で、建物が12世紀前半を中心とする時期の所産になることを示す。また、2は東播系とは考えにくい須恵器碗で、搬入供膳具となる。



第45図 包含層出土遺物（1：3）

## 2. 調査の概要

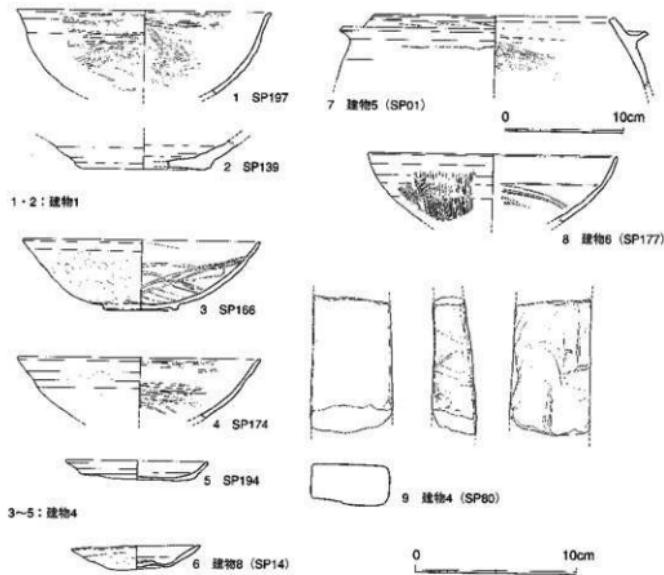
**建物 2** 検出した範囲では、東西 2 間（5 m）、南北 2 間（5 m）の総柱建物になる。しかし、東辺の柱穴は特に大きいことから、建物の大部分は調査区外にあるものと考えられる。建物の主軸方向は、N-6° -Eである。建物 2 の時期は明確にはできないが、主軸方向から建物 1 に前後するものと考えられる。



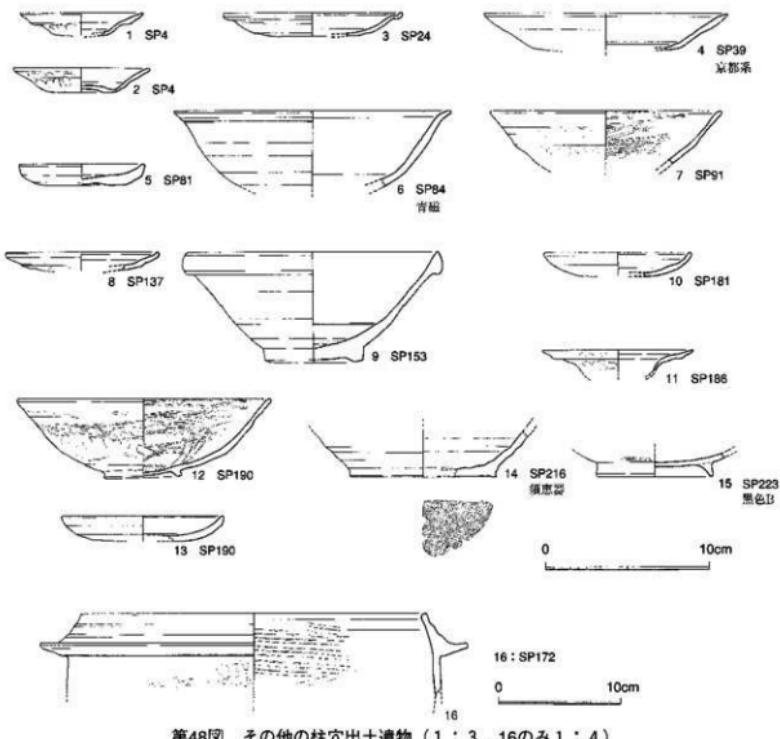
第46図 SP190遺物出土  
状況（1：10）

**建物 3** 調査区北部で検出した南北 1 間（2.5m）以上、東西 1 間（2.0m）以上の総柱建物と考えられる。主軸方向は N-14° -Eである。検出範囲が限定され、周辺の状況が把握でないことから、当建物群に帰属するかは、判断できない。

**その他の柱穴** 当調査区からは多数の柱穴が検出されたとおり、これ以外にも建物が多くあったことが予見できる。これら柱穴の出土遺物をみると、最も古いものは S P223から出土した第48図15の黒色土器B類楕（11世紀前半）がある。次いで、S P137から出土した第48図8の土師器小皿は、11世紀末の所産である。また同時期のものが、S P184・216などからも出土している。以後、12世紀から13世紀後半にかけての遺物が柱穴から



第47図 建物出土遺物（1～6・8・9は1：3、7は1：4）

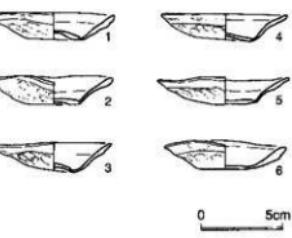


第48図 その他の柱穴出土遺物 (1 : 3、16のみ1 : 4)

出土するが、明らかな14世紀の遺物はない。S P 223のように11世紀前半の遺物もあるが、11世紀後半の遺物は全く出土しないことから、この時期は単発的に建物が展開しただけにとどまるものと考えられる。よって、当建物群は11世紀末に成立し、以後安定的に14世紀まで継続する。建物群の廃絶は、集村化を背景とする移動によるものであろう。

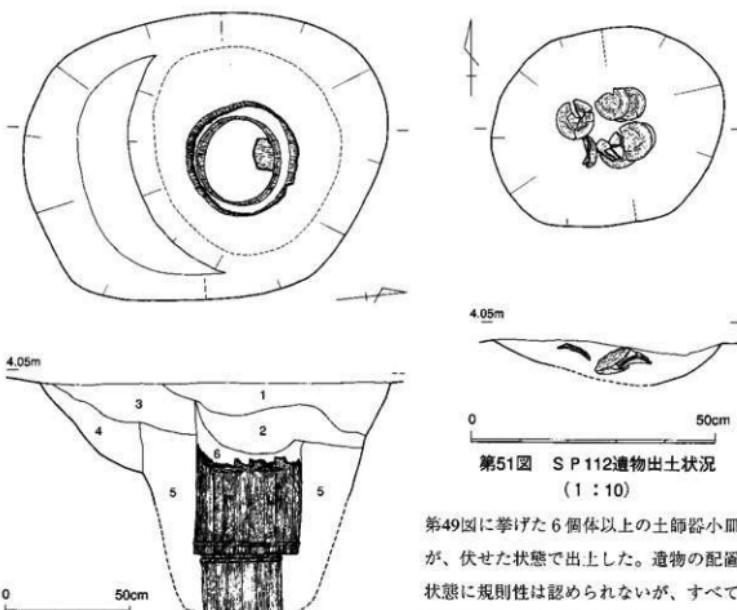
なお、S P 190からは、第48図12・13の遺物が出土している。このうち12は、和泉型瓦器椀II-2期の所産となる。また、S P 216からは、同図14の東播系の可能性がある須恵器の椀もしくは鉢の底部が出土した。

S P 112（土器埋納坑） 東西0.5m、南北0.4m、深さ5cm前後をはかり、楕円形状の平面形を呈する。



第49図 S P 112出土遺物 (1 : 3)

## 2. 調査の概要



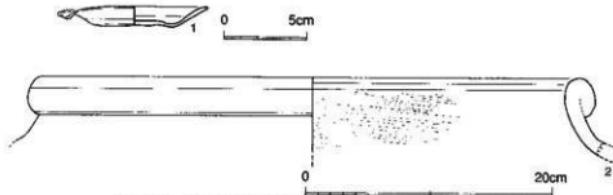
第51図 SP 112遺物出土状況  
(1 : 10)

第49図に挙げた6個体以上の土器盤小皿が、伏せた状態で出土した。遺物の配置状態に規則性は認められないが、すべて在地盤の小皿で、伏せて埋納されていることで共通する。遺物から15世紀代の所産と考えられる。

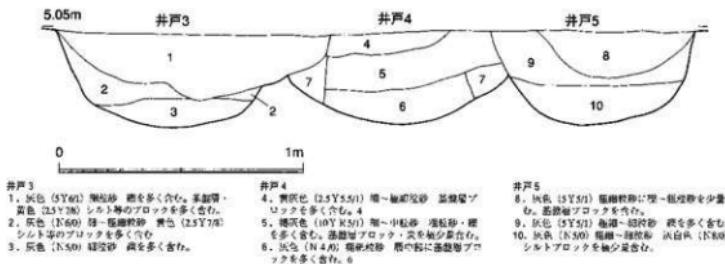
第50図 井戸1平面・断面図 (1 : 20)

mをはかる、円形状の平面形を呈する土坑である。当初、土壌窓の可能性を想定して掘削したが、断面観察用の畦を掘削した結果、2基の土坑が重複することが判明した。土坑の性格は判断しにくいが、井戸の可能性が考えられる。なお、出土遺物から11世紀末の所産と考えられる。

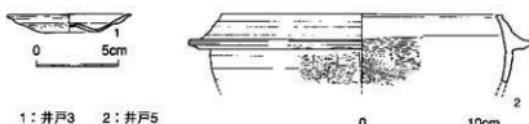
**井戸1** 南北1.5m、東西1.15m、深さ約1mをはかり、橢円形状の平面形を呈する井戸である。井筒は底板を抜いた桶を2段に重ねる。上段の桶は、直徑45cm、高さ45cm、下段は直徑



第52図 井戸1出土遺物 (1は1 : 3、2は1 : 4)

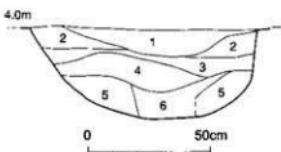


第53図 井戸3～5断面図 (1:20)



第54図 井戸3・5出土遺物 (1は1:3、2は1:4)

30cm、高さ30cmをはかる。上層から出土した遺物に第52図の土師器小皿、V期の備前焼壺口縁がある。15世紀後半以降の所産と考えられる。



1. 灰色 (SY6/1) 塗装砂 磨を多く含む。
2. オリーブ色 (10Y6/2) 塗装砂 磨を多く含む。
3. 灰色 (N60) 塗装砂 磨を多く含む。
4. 黄色 (SY55W) 塗-施面光沢 磨-石を多く含む。
5. オリーブ色 (25G-Y6/1) シルトブロック型の焼成灰 (SY6/1)
6. 黄白色 (SY70) 施錆塗装-シルト 磨上部に磨を多く含む。

第55図 井戸2断面図 (1:20)

柱の付け替えが何度も行われた可能性を考えられる。建物の規模から、付属家屋と位置付けられる。第47図3～5・9の遺物が出土している。このうち、3・4はⅢ-Ⅱ期の和泉型瓦器碗で、建物は13世紀初頭残後の所産と考えられる。

建物5 南北3間(4.0m)、東西1間(1.3m)以上の割立柱建物である。建物の大半は調査区外に広がるため、規模・構造は明確ではないが、その規模から付属家屋と考えられる。建物

### (3) 東部建物群の様相

建物4 東西2間(5.0m)、南北3間(5.0m)をはかる、総柱建物である。建物の主軸方向は、N-17°-Eである。複数の柱穴が重複する状況で検出されていることから、柱の付け替えが何度も行われた可能性を考えられる。建物の規模から、付属家屋と位置付けられる。

建物5 南北3間(4.0m)、東西1間(1.3m)以上の割立柱建物である。建物の大半は調査区外に広がるため、規模・構造は明確ではないが、その規模から付属家屋と考えられる。建物

## 2. 調査の概要

の主軸方向は、N-17°-Eである。SP01から第47図7の瓦質足釜のほかに、IV期の和泉型瓦器輪が出土した。

建物6 東西2間(4.8m)、南北1間(1.6m)以上の総柱建物である。建物の大半は調査区外にあるため、規模は確定できないが、付属家屋となる可能性が考えられる。建物の主軸方向は、W-1°-Eである。SP177から第47図8の同安窯系青磁碗が出土しており、12世紀後半以降の所産と考えられる。

建物7 東西2間(3.7m)以上、南北2間(3.2m)の側柱建物と考えられる。図化できる遺物は出土していないが、SP23からII-3期あるいはIII-1期の可能性がある和泉型瓦器輪が出土している。

建物8 東西2間(3.5m)あるいは4間(7.7m)、南北1間(2.1m)以上の総柱建物と考えられる。SP14から、第47図6の土師器小皿が出土していることから、中世後期の所産となる。建物の主軸方向はN-13°-Eであるが、同時期の溝1・2と主軸方向が異なることから、建物の復元には検討の余地を残す。

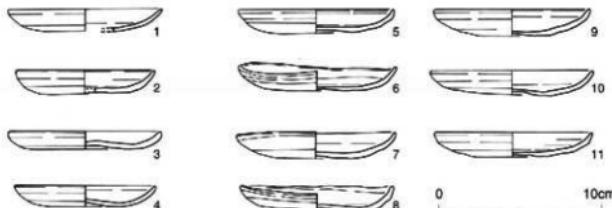
その他の柱穴 柱穴のうち、古いものは第48図3が出土したSP24で、11世紀末に比定できる。12世紀前半の遺物は認められず、12世紀中頃から中世後期にいたる遺物が出土している。また、東部建物群では主屋級の建物は復元できないことから、建物群の中心部は調査区東方一帯にあると考えられる。よって、東部建物群が11世紀末には成立し、その後中世後期まで安定的に継続するものと考えられる。



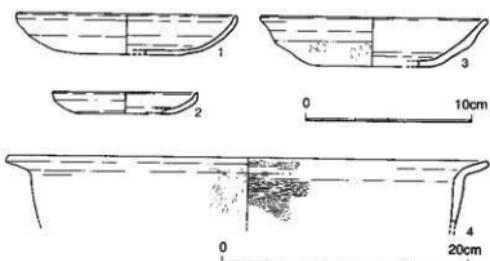
第56図 土器群2遺物出土状況



第57図 土器群3遺物出土状況



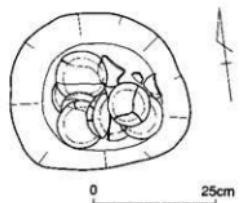
第58図 土器群2・3出土遺物 (1:3)



第59図 SP 85出土遺物（1～3は1：3、4は1：4）



第60図 SP 126出土遺物（1：3）



第61図 SP 126遺物出土状況（1：10）

なお、SP 85は、柱抜き取り後に第59図の土師器大皿・小皿・鍋が埋められていた。また、土器群2もSP 85と同じく、第58図1～4にみる土師器小皿が埋められていた。

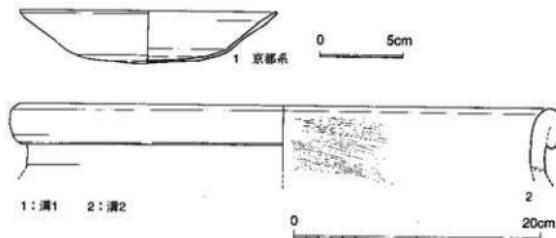
**SP 126（土器埋納坑）** 東西38cm、南北32cm、深さ3cmをはかるビットである。

包含層上面から掘削された遺構であるため、本来は15cm程度の深さになるものと考えられる。ビット内からは、第60図1～4にあげる小瓶が8個体以上出土した。遺物から、12世紀後半頃の所産と考えられる。

**土器群3** 包含層掘削時に、土器がまとまって出土したが、遺構としては把握できなかった。第58図5～11の土師器小皿から、12世紀中頃の所産と考えられる。

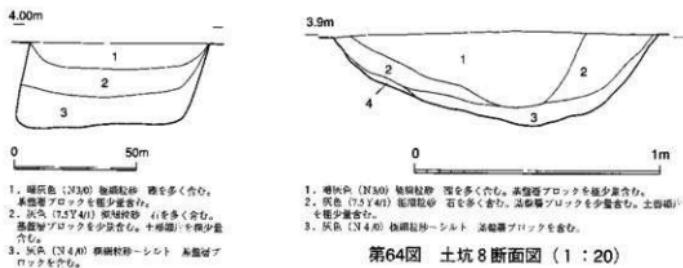
**溝1** 建物群の北辺・西辺に、巡らされた区画溝である。検出面上では、幅0.4mであるが、南壁面から幅1.2m、深さ15cmの規模になる。第62図1の京都系土器皿が出土している。15世紀後半の所産である。

**溝2** 東部建物群外周に巡らされた区画溝である。検出面上では幅60cm程度であるが、第



第62図 溝1・2出土遺物（1は1：3、2は1：4）

## 2. 調査の概要



第63図 土坑4断面図 (1:20) 4層から掘削されている。南壁面から幅0.8m、深さ25cmの  
規格になる。北端部は東向きに屈曲するが、北辺は削平され

ている。溝2からは、V期の備前焼甕口縁部が出土している。頸部の傾きに違和感を感じるが、  
焼け歪みによるものとして扱った。基本層の堆積時期から16世紀代と考えられる。

土坑4 長軸長1.3m、幅0.75m、深さ0.4mをはかり、隅丸長方形状の平面形状を呈する。検出当初、土壤墓の可能性を想定したが、墓の特徴を示すような遺物は全く出土しなかった。埋土には基盤層ブロックを多く含み、土坑は人為的に埋められている。同じ平面形状の土坑はほかにも点在するが、土壤墓の特徴を示すものはなかった。

土坑8 直径1.3m、深さ0.4mをはかり、円形状の平面形を呈する。最下層には、基盤層の2次堆積が認められる。上層埋土は大きく2層に区分できるが、土質が異なることから井戸と考えられる。ただし、井筒などの部材が出土しなかった。

## 3. まとめ

当調査区では東西2群の建物群を検出した。そこで、これら建物群毎の展開を整理した上で、  
服部村集落における建物群の意義について検討する。

**東西建物群の展開** 当調査区では、11世紀前半に建物が出現すると考えられるが、これは短期間のうちに廃絶し、11世紀後半に続かない。東西建物群が出現するのは、11世紀末である。二つの建物群は共に12世紀以降も安定的に継続する。しかし、集村化が行われる13世紀後半をもって西部建物群は廃絶し、敷地は一旦耕地化する。一方、東部建物群は14世紀以降も継続し、15世紀には区画溝を巡らすようになる。また、15世紀になると、西部にも再び建物群が出現することから、この時期には集落域が拡大したものと考えられる。

このように、東西建物群は同じ集落内にあって、ほぼ同時期に出現しながら、集村化を契機に異なる展開をすることが判明した。

**服部村集落における東西建物群の位置** 中世における服部村集落については、これまでの発掘調査から、第23次調査区の建物群を中心に11世紀後半に形成されることが明らかになってい

る。それ以後、集落域は同心円状に拡大し続け、13世紀には第23次調査区の建物群の北方200mまで範囲を広げる。しかし、13世紀後半に集村化し、近代の服部村の原型を形成する。このような集落の展開過程において、当調査区で検出された東西建物群は、どのように位置付けられるのであろうか。

まず、当調査区は、近代服部村集落の北辺部に位置する。また、服部村集落の中心的存在と目される第23次調査区からは、約100mほど離れている。11世紀後半に形成された集落が、第23次調査区周辺に限定されること、同じく23次調査区の北方50mに位置する第12次調査区の状況から判断できる。

一方、東西建物群が出現するのは11世紀末であり、服部村の成立からやや遅れる。また、11世紀後半の集落域からも離れていることは、これらの建物群が集落の拡大過程で出現したことを意味する。ところで、13世紀後半の集村化によって、西部建物群が移動する中、東部建物群はその位置を変えずに展開し続ける。これは、服部村集落が集落の位置を変えずに、集村化を行ったことによるものと考えられる。

以上より、当調査区における建物群の展開を、中世服部村集落の展開の中で位置付けてみた。その結果、集落の変遷過程の中に、建物群の展開が整合的に位置付けられることが確認できた。現在、日本各地で中世の集落遺跡が多く発掘調査されている。しかし、個々の建物群の展開を集落の変遷過程の中で捉えられる遺跡は数少ない。そうした中で、服部村集落の事例は豊中市のみならず、全国的に見ても貴重な事例になろう。よって、今後とも周辺の開発にあたっては、慎重を期すことを提言したい。

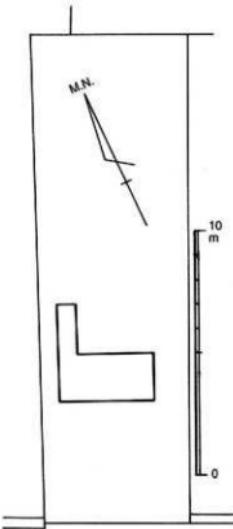
### 3.まとめ

## 第VII章 桜塚古墳群第10次調査

### 1. 調査の経緯

当調査区は、豊中市曾根東町1丁目66-3に所在する。平成19年4月27日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて平成19年5月17日に確認調査を行ったところ、申請地の南半部において地表から約15cm下部で古墳の周濠埋土及び埴輪片を確認した。個人住宅建設に伴う基礎掘削時の深度が遺構検出より深くなる部分について、遺構の損壊を免れないことが判明したため、協議の結果、本調査を実施することとなった。

調査は平成19年9月10日から平成19年9月14にかけて実施し、調査面積は古墳周濠の南辺肩部を中心北辺肩部を部分的に確認できる範囲を含め9.0m<sup>2</sup>とした。



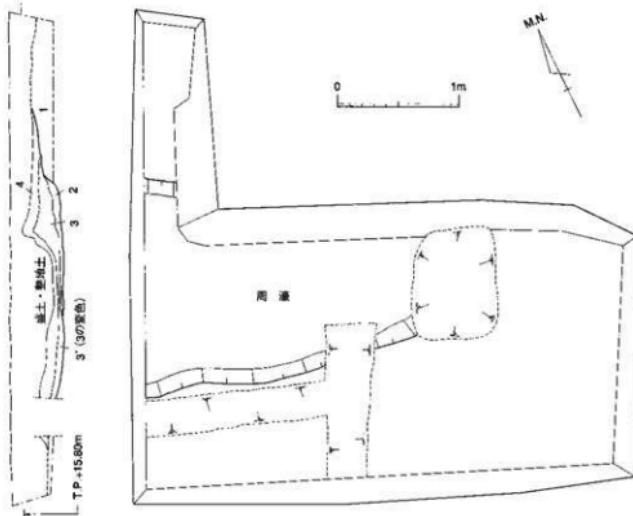
第65図 調査範囲図（1：200）



第66図 調査位置図（1：5,000）

## 2. 調査の概要

- 灰白色 (2.5Y7/1) シルト (～僅量粒砂)。均質で堅軟。70%以上が第二級化成により黄褐色 (10YR7/8) を呈する。洗塩層上部。基盤層。
- 灰黃褐色 (10YR4/2) ～褐灰色 (10YR5/1) シルト (～細粒土)。上層は基盤層に似るが砂粒多く、3層ブロックを含む。周濠底上層。
- 褐灰色 (7.5YR4/1) シルト (～粘土)。繊維を若干含む。基盤層ブロック、堆積片を多く含む。
- 灰黃褐色 (10YR4/3) 粘粒砂 (～シルト)。近世～近代に因縁凹部を認め矣した底土。



第67図 調査区平面・断面図 (1 : 40)

## 2. 調査の概要

当該調査区の隣接地では、既往の本調査及び確認調査によって古墳の周濠が検出されている。平面プランとしては、類似例が見つからないほど非常に小型ながら前方後円形をなす復元がされており、当該調査区では前方部中央の周濠が位置する推定がなされていた。

今回の調査では、従前の建築等による削平が顕著であったが、周辺同様に古墳周濠と考えられる堆積土を検出した。周濠は東西方向に掘削されており、東側では幅約1.8mを測る。残存していた埋土はわずかであるが、底面のレベルは西側に向かって高くなり、調査区中央付近で消滅する。前方後円形の復元が正しいとすれば、古墳前方部にブリッジ状の造構があった可能性も考えられるが、あまりにも周濠の残存状況が悪く、現状では確定的な形状の復元をすることはできない。出土した埴輪片はいずれも表面が剥離した細片で、タテハケが施されている以外には記載すべき特徴がないが、周辺事例と同様に5世紀後半の所産と考えられる。

桜塚古墳群中において最も南端のグループにあたる周辺の古墳は、いずれも残存状況が悪く、その規模や平面形が不明瞭で、主体部も一切検出されておらず詳細が不明であるが、5世紀後半代に出現する小規模古墳群との対比において重要な位置を占めることは間違いない。今後の調査と資料の蓄積がまたれる。

## 第Ⅷ章 確認調査の成果

### 確認調査の概要

昨年度1月～3月および今年度4月～12月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は、45件を数え、昨年度11件、今年度34件という内訳である。このうち、12件の調査で遺構等が確認され、うち3件については協議の結果、山ノ上遺跡第17次調査、小曾根遺跡第28次調査及び桜塚古墳群第10次調査として本格的な発掘調査を行なうこととなった。残り9件については、建物基礎の設計変更などから、本格的な発掘調査には至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第68図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

**第1表 確認調査一覧表**

| 番号 | 地名            | 所在地                      | 開工日        | 調査原因   | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 遺構等<br>の有無 | 開工後の必要<br>工程 | 担当者 | 備考     |
|----|---------------|--------------------------|------------|--------|-------------------------|------------|--------------|-----|--------|
| 1  | 少宮遺跡          | 市原町1丁目46-1の一部、59-2       | 2007/01/04 | 個人住宅建設 | 80.14                   | 無          | 第二工事         | 林内  |        |
| 2  | 山ノ上遺跡         | 立石町1丁目119-1、128-3        | 2007/01/04 | 寺院施設   | 199.64                  | 有          | 本明寺「山ノ上口」    | 林内  |        |
| 3  | 豊前北遺跡         | 豊前町1丁目152-5              | 2007/01/25 | 個人住宅建設 | 40.15                   | 無          | 第三工事         | 橋田  |        |
| 4  | 櫛ヶ池跡          | 星生町1丁目1344               | 2007/02/03 | 個人住宅建設 | 27.53                   | 有          | 協議中          | 橋田  | 財産交換   |
| 5  | 荒川遺跡          | 東山町中1丁目68-1の一部           | 2007/02/04 | 個人住宅建設 | 67.07                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 6  | 山ノ上遺跡         | 立石町279の一部                | 2007/03/15 | 個人住宅建設 | 46.20                   | 有          | 候工事          | 沖内  | 計画変更   |
| 7  | 木賀原古墳群        | 木賀原2丁目115B-3             | 2007/03/15 | 個人住宅建設 | 57.96                   | 無          | 第一工事         | 沖内  |        |
| 8  | 太賀原古墳群        | 木賀原2丁目150-1              | 2007/03/15 | 個人住宅建設 | 53.98                   | 無          | 第二工事         | 林内  |        |
| 9  | 桜塚古墳群         | 上野町2丁目136-32             | 2007/03/15 | 個人住宅建設 | 92.54                   | 無          | 第三工事         | 林内  |        |
| 10 | 桜谷古墳群         | 上野町3丁目535                | 2007/03/15 | 個人住宅建設 | 158.51                  | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 11 | 松井谷古墳群        | 東山町中1丁目199-1             | 2007/03/16 | 個人住宅建設 | 165.08                  | 無          | 第二工事         | 林内  |        |
| 12 | 本丸遺跡          | 小町4丁目176-2               | 2007/04/08 | 個人住宅建設 | 75.18                   | 穴道壁        | 第一工事         | 林内  |        |
| 13 | 芦ヶ瀬遺跡         | 西内町1丁目157-3の一部           | 2007/04/19 | 個人住宅建設 | 41.25                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 14 | 長井古墳群         | 美野町4丁目1124-2, 249-1      | 2007/04/19 | 個人住宅建設 | 61.28                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 15 | 太賀原古墳群        | 木来町2丁目286                | 2007/04/26 | 個人住宅建設 | 88.46                   | 無          | 第二工事         | 林内  |        |
| 16 | 京丹波町・京口遺跡（北端） | 貴船町1丁目199-1              | 2007/05/03 | 個人住宅建設 | 55.06                   | 斜溝記        | 第二工事         | 林内  |        |
| 17 | 小字松尾跡         | 北郷町1丁目297-6              | 2007/05/02 | 個人住宅建設 | 36.86                   | 有          | 本渕在（小音羽地区）   | 浅山  |        |
| 18 | 新光遺跡          | 土生町2丁目185, 185-2~5       | 2007/05/02 | 個人住宅建設 | 112.88                  | 無          | 候工事          | 橋田  | 基盤復元   |
| 19 | 野見山遺跡         | 野見山1丁目186-6              | 2007/05/19 | 個人住宅建設 | 302.72                  | 有          | 第一工事         | 橋田  | 金構造落   |
| 20 | 下河原遺跡         | 萩原町4丁目190-1              | 2007/05/19 | 個人住宅建設 | 63.95                   | 無          | 第一工事         | 経用  |        |
| 21 | 桜塚古墳群         | 桜塚東町1丁目166-3             | 2007/05/17 | 個人住宅建設 | 70.80                   | 有          | 本渕在（桜塚古墳群の北） | 橋田  |        |
| 22 | 平野遺跡          | 平野2丁目39                  | 2007/05/31 | 個人住宅建設 | 53.87                   | 有          | 候工事          | 林内  | 基盤復元   |
| 23 | 桜塚古墳群・河町北遺跡   | 河町北1丁目45-3, 4            | 2007/06/01 | 個人住宅建設 | 90.40                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 24 | 新光遺跡          | 本郷町1丁目40, 40-2, 3        | 2007/06/01 | 個人住宅建設 | 307.22                  | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 25 | 京丹波北遺跡        | 西内町1丁目66-4               | 2007/06/01 | 個人住宅建設 | 70.06                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 26 | 山ノ上遺跡         | 立石町6-9                   | 2007/06/14 | 個人住宅建設 | 49.32                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 27 | 芦ヶ瀬遺跡         | 西内町4丁目159-6              | 2007/06/14 | 個人住宅建設 | 61.38                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 28 | 鶴原古墳群         | 鶴原町1丁目151-2              | 2007/07/05 | 個人住宅建設 | 57.98                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 29 | 鶴原古墳群         | 鶴原町1丁目152                | 2007/07/05 | 個人住宅建設 | 82.46                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 30 | 豊前北遺跡         | 西内町北1丁目141-5             | 2007/07/19 | 個人住宅建設 | 47.71                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 31 | 桜井古墳群         | 桜井町1丁目20-1の一部、20-2       | 2007/07/26 | 個人住宅建設 | 108.45                  | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 32 | 桜塚古墳群         | 桜塚町3丁目126-3              | 2007/07/26 | 個人住宅建設 | 70.14                   | 共探記        | 第一工事         | 林内  |        |
| 33 | 東丸北遺跡         | 宮迫北町1丁目141-7             | 2007/08/01 | 個人住宅建設 | 35.64                   | 無          | 第一工事         | 橋田  |        |
| 34 | 基母遺跡          | 御飯原町5丁目61-1の一部           | 2007/08/02 | 個人住宅建設 | 59.22                   | 有          | 第一工事         | 橋田  |        |
| 35 | 山ノ上遺跡         | 宝山町20-27の一部              | 2007/08/30 | 個人住宅建設 | 62.93                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 36 | 本丸遺跡          | 本町3丁目120-1の一部            | 2007/09/01 | 個人住宅建設 | 53.39                   | 有          | 候工事          | 橋田  | 基盤復元   |
| 37 | 新光遺跡          | 立井町3丁目153-27             | 2007/09/13 | 個人住宅建設 | 75.56                   | 有          | 候工事          | 橋田  | 基盤復元   |
| 38 | 桜塚古墳群         | 南桜塚1丁目56-4               | 2007/09/13 | 個人住宅建設 | 46.25                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 39 | 鶴原古墳群         | 中桜塚3丁目135                | 2007/10/08 | 個人住宅建設 | 126.92                  | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 40 | 鶴原遺跡          | 鶴原町2丁目139の一部             | 2007/10/05 | 西内住宅建設 | 104.28                  | 無          | 第一工事         | 橋田  |        |
| 41 | 桜井古墳群         | 南桜塚2丁目123-2の一部           | 2007/11/01 | 個人住宅建設 | 73.75                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 42 | 桜井遺跡          | 南桜塚2丁目1138-4の一部          | 2007/11/08 | 個人住宅建設 | 39.84                   | 無          | 第一工事         | 橋田  |        |
| 43 | 庄内遺跡          | 庄内町5丁目151-6              | 2007/11/08 | 個人住宅建設 | 57.92                   | 無          | 第一工事         | 橋田  |        |
| 44 | 荒川遺跡          | 荒川町1丁目171-1, 71-2, 3の各一部 | 2007/12/06 | 個人住宅建設 | 72.56                   | 無          | 第一工事         | 林内  |        |
| 45 | 室町西遺跡         | 近地町1丁目14-28              | 2007/12/13 | 個人住宅建設 | 42.23                   | 有          | 第一工事         | 橋田  | 当然既路のみ |



第68図 確認調査地点位置図

## 2007-01 少路遺跡

調査日：平成19年（2007年）1月4日

調査場所：豊中市春日町1丁目

46-1の一部、59-2

調査対象面積：80.14m<sup>2</sup>

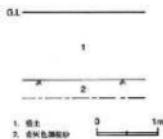
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下110cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第69図 トレンチ掘削状況



第70図 トレンチ断面図

## 2007-02 山ノ上遺跡

調査日：平成19年（2007年）1月4日

調査場所：豊中市立花町1丁目

110-1, 128-3

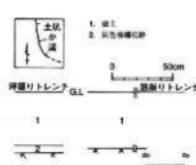
調査対象面積：190.64m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により軽掘りトレンチ1か所と手掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：軽掘りトレンチの地表下50cmにおいて基盤層を検出し、その上面で遺構を確認した。

調査後の処置：本調査を実施。  
(山ノ上遺跡第17次調査)

第71図 トレンチ掘削状況



第72図 トレンチ平面・断面図

## 2007-03 豊島北遺跡

調査日：平成19年（2007年）1月25日

調査場所：枚方市曾根南町1丁目152-5

調査対象面積：40.15m<sup>2</sup>

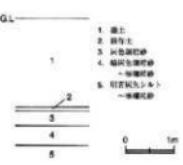
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下260cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第73図 トレンチ掘削状況



第74図 トレンチ断面図

## 2007-04 積積遺跡

調査日：平成19年（2007年）2月1日

調査場所：豊中市脇部寺町2丁目1344

調査対象面積：27.53m<sup>2</sup>

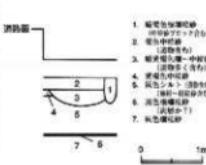
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下80・100・110・175cmで遺構面を確認した。

調査後の処置：建物基礎の設計変更により、再立会後、慎重工事を指示。



第75図 トレンチ掘削状況



第76図 トレンチ断面図

### 2007-05 蛍池遺跡

調査日：平成19年（2007年）3月1日

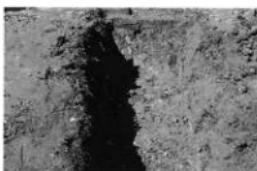
調査場所：豊中市螢池中町2丁目  
68-1の一部

調査対象面積：67.07m<sup>2</sup>

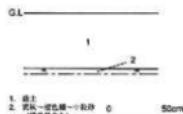
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下55cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第77図 トレンチ掘削状況



第78図 トレンチ断面図

### 2007-06 山ノ上遺跡

調査日：平成19年（2007年）3月15日

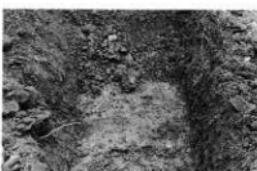
調査場所：豊中市宝山町27の一部

調査対象面積：46.20m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ1では地表下40cmで、トレンチ2では地表下32cmでそれぞれ基礎層を検出し、その直上面において遺構を確認した。

調査後の処置：遺物基礎の設計変更により、再立後、慎重工事を指示。



第79図 トレンチ掘削状況



第80図 トレンチ平面・断面図

### 2007-07 太鼓塚古墳群

調査日：平成19年（2007年）3月15日

調査場所：豊中市永楽荘2丁目150-3

調査対象面積：57.96m<sup>2</sup>

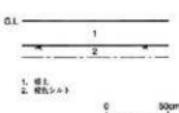
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下20~25cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第81図 トレンチ掘削状況



第82図 トレンチ断面図

### 2007-08 太鼓塚古墳群

調査日：平成19年（2007年）3月15日

調査場所：豊中市永楽荘2丁目150-1

調査対象面積：53.98m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下118cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第83図 トレンチ掘削状況



第84図 トレンチ断面図

## 2007-09 桜井谷窯跡群

調査日：平成19年（2007年）3月15日

調査場所：豊中市上野西2丁目138-32

調査対象面積：92.54m<sup>2</sup>

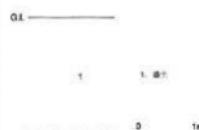
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下180cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第85図 トレンチ掘削状況



第86図 トレンチ断面図

## 2007-10 桜井谷窯跡群

調査日：平成19年（2007年）3月15日

調査場所：豊中市上野東3丁目535

調査対象面積：158.51m<sup>2</sup>

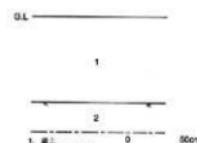
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下70~90cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第87図 トレンチ掘削状況



第88図 トレンチ断面図

## 2007-11 桜井谷窯跡群

調査日：平成19年（2007年）3月16日

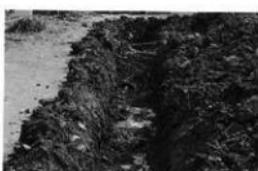
調査場所：豊中市東豊中町3丁目199-1

調査対象面積：165.68m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査及び進入口部の断面観察を実施した。

調査の概要：地表下30cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第89図 トレンチ掘削状況



第90図 トレンチ断面図

## 2007-12 本町遺跡

調査日：平成19年（2007年）4月5日

調査場所：豊中市木町4丁目76-2

調査対象面積：75.18m<sup>2</sup>

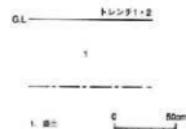
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下55cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第91図 トレンチ掘削状況



第92図 トレンチ断面図

### 2007-13 庄内遺跡

調査日：平成19年(2007年)4月19日

調査場所：豊中市庄内西町4丁目  
57-3の一部

調査対象面積：46.77m<sup>2</sup>

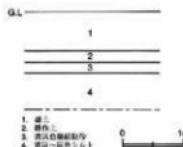
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度(地表下160cm)において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第93図 トレンチ掘削状況



第94図 トレンチ断面図

### 2007-14 桜井谷窯跡群

調査日：平成19年(2007年)4月19日

調査場所：豊中市熊野町4丁目  
247-2, 3, 249-1

調査対象面積：61.28m<sup>2</sup>

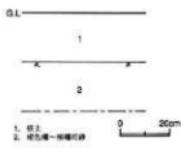
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下20cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第95図 トレンチ掘削状況



第96図 トレンチ断面図

### 2007-15 太鼓塚古墳群

調査日：平成19年(2007年)4月26日

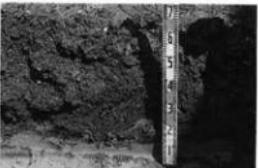
調査場所：豊中市水楽荘2丁目286

調査対象面積：88.46m<sup>2</sup>

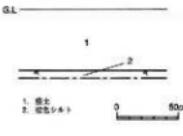
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下45~50cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第97図 トレンチ掘削状況



第98図 トレンチ断面図

### 2007-16 原田遺跡・原田城跡(北城)

調査日：平成19年(2007年)4月26日

調査場所：豊中市菅原西町4丁目198-1

調査対象面積：55.06m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ1・2ともに掘削深度(地表下45cm)において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：東側隣接地において疑似とみられる遺構を検出していることから、慎重工事を指示。



第99図 トレンチ掘削状況



第100図 トレンチ断面図

## 2007-17 小曾根遺跡

調査日：平成19年（2007年）5月2日

調査場所：豊中市北条町1丁目297-6

調査対象面積：36.86m<sup>2</sup>

調査の方法：直機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

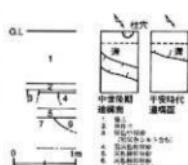
調査の概要：地表下96~100~140cmにおいて造構面を検出した。

調査後の処置：本調査を実施。

（小曾根28次）



第101図 トレンチ掘削状況



第102図 トレンチ平面・断面図

## 2007-18 新免遺跡

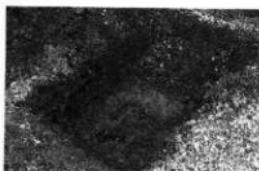
調査日：平成19年（2007年）5月2日

調査場所：豊中市玉井町2丁目  
185、185-2~5調査対象面積：112.88m<sup>2</sup>

調査の方法：直機によりトレンチ3か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ3において地表下45cmで遺構埋土が検出された。

調査後の処置：基礎掘削深度が遺構埋土に達しないことから、慎重工事を指示。



第103図 トレンチ掘削状況



第104図 トレンチ平面・断面図

## 2007-19 勝部東遺跡

調査日：平成19年（2007年）5月10日

調査場所：豊中市勝部1丁目80-6

調査対象面積：302.72m<sup>2</sup>

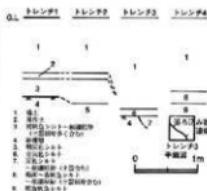
調査の方法：直機によりトレンチ4か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ3において河川等の可能性がある落ち込み状造構を検出した。

調査後の処置：その他のトレンチにおいては遺構等が確認されなかったことから、着工を指示。



第105図 トレンチ掘削状況



第106図 トレンチ平面・断面図

## 2007-20 下原窯跡群

調査日：平成19年（2007年）5月10日

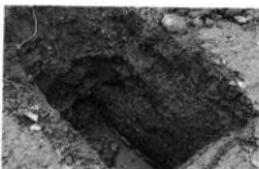
調査場所：豊中市南桜塚4丁目90-1

調査対象面積：63.95m<sup>2</sup>

調査の方法：直機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下140cmにおいて低湿度堆積土を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第107図 トレンチ掘削状況



第108図 トレンチ断面図

確認調査(2007-21~28)

### 2007-21 桜塚古墳群

調査日：平成19年(2007年)5月17日

調査場所：豊中市曾根東町1丁目66-3

調査対象面積：70.80m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所、坪掘りトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

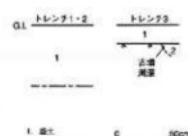
調査の概要：トレンチ3において古墳の周囲を検出した。

調査後の処置：本調査を実施。

(桜塚古墳群10次)



第109図 トレンチ掘削状況



第110図 トレンチ断面図

### 2007-22 本町遺跡

調査日：平成19年(2007年)5月31日

調査場所：豊中市本町2丁目39

調査対象面積：53.87m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下45cmにおいて遺物包含層を検出した。

調査後の処置：建物の基礎掘削深度は盛土内に収まることから、着工を指示。



第111図 トレンチ掘削状況



第112図 トレンチ断面図

### 2007-23 桜塚古墳群・岡町北遺跡

調査日：平成19年(2007年)6月7日

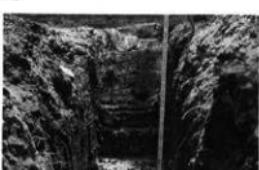
調査場所：豊中市岡町北1丁目45-3,4

調査対象面積：90.40m<sup>2</sup>

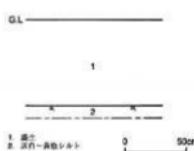
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下70cmにおいて基盤層を検出したが、大石痕古墳に隣接するような遺構等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第113図 トレンチ掘削状況



第114図 トレンチ断面図

### 2007-24 新免遺跡

調査日：平成19年(2007年)6月14日

調査場所：豊中市東広町1丁目

40, 40-2, 3

調査対象面積：307.22m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ2か所、坪掘りトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：いずれのトレンチからも地表下65~95cmにおいて基礎層を検出したが、遺構、遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第115図 トレンチ掘削状況



第116図 トレンチ断面図

## 2007-25 原田遺跡

調査日：平成19年（2007年）6月14日

調査場所：豊中市原田元町2丁目66-4

調査対象面積：70.06m<sup>2</sup>

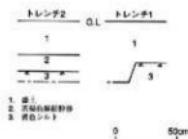
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下35~40cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第117図 トレンチ掘削状況



第118図 トレンチ断面図

## 2007-26 山ノ上遺跡

調査日：平成19年（2007年）6月14日

調査場所：豊中市宝山町6-9

調査対象面積：49.32m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下50cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第119図 トレンチ掘削状況



第120図 トレンチ断面図

## 2007-27 庄内遺跡

調査日：平成19年（2007年）6月14日

調査場所：豊中市庄内西町4丁目59-6.9

調査対象面積：64.38m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下130cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第121図 トレンチ掘削状況



### 2007-29 穂積遺跡

調査日：平成19年（2007年）7月5日

調査場所：巣中市服部元町1丁目52

調査対象面積：82.46m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下150cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第125図 トレンチ掘削状況



第126図 トレンチ断面図

### 2007-30 蛍池北遺跡

調査日：平成19年（2007年）7月19日

調査場所：巣中市螢池北町1丁目141-5

調査対象面積：47.71m<sup>2</sup>

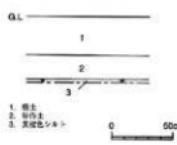
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ1・2とともに地表下35～58cmにおいて基盤層を検出しがたが、遺構・遺物等は確認されなかつた。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第127図 トレンチ掘削状況



第128図 トレンチ断面図

### 2007-31 熊野田遺跡

調査日：平成19年（2007年）7月26日

調査場所：巣中市熊野町4丁目  
20の一一部、20-2

調査対象面積：108.45m<sup>2</sup>

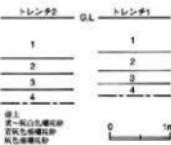
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下140cm）において、遺構・遺物等は確認されなかつた。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第129図 トレンチ掘削状況



第130図 トレンチ断面図

### 2007-32 桜塚古墳群

調査日：平成19年（2007年）7月26日

調査場所：巣中市南桜塚3丁目128-3

調査対象面積：70.14m<sup>2</sup>

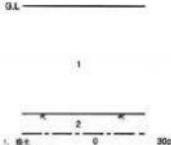
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下30cmにおいて基盤層を検出したが、遺構は確認されなかつた。

調査後の処置：盜土内から遺物片が見られたことから周辺の試掘結果を考慮し、再会合後に慎重工事を指示。



第131図 トレンチ掘削状況



第132図 トレンチ断面図

## 2007-33 蛍池北遺跡

調査日：平成19年（2007年）8月2日

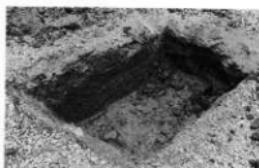
調査場所：豊中市螢池北町1丁目141-7

調査対象面積：35.64m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下75・85cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第133図 トレンチ掘削状況



第134図 トレンチ断面図

## 2007-34 服部遺跡

調査日：平成19年（2007年）8月2日

調査場所：豊中市曾根東町5丁目  
61-1の一部調査対象面積：59.22m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ1・2ともに地表下80cmにおいて遺物を含む明青灰中粒砂層を検出したが、遺構等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第135図 トレンチ掘削状況



第136図 トレンチ断面図

## 2007-35 山ノ上遺跡

調査日：平成19年（2007年）8月30日

調査場所：豊中市宝山町20-27の一部

調査対象面積：62.93m<sup>2</sup>

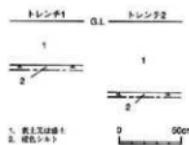
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ1では地表下36cm、トレンチ2では地表下58cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第137図 トレンチ掘削状況



第138図 トレンチ断面図

## 2007-36 本町遺跡

調査日：平成19年（2007年）9月6日

調査場所：豊中市本町3丁目132の一部

調査対象面積：53.39m<sup>2</sup>

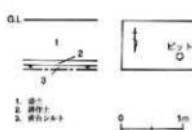
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下72cmにおいて基盤層を検出し、その上面で遺構（小壁）を確認した。

調査後の処置：遺物の基礎掘削深度は盛土内におさまることから、再立会後、慎重工事を指示。



第139図 トレンチ掘削状況



第140図 トレンチ平面・断面図

確認調査（2007-37~44）

### 2007-37 新免遺跡

調査日：平成19年（2007年）9月13日

調査場所：豊中市玉井町3丁目153-27

調査対象面積：75.56m<sup>2</sup>

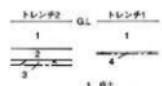
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ2において地表下35cmで遺物包含層を、地表下62cmで基盤層を検出し、その上面で遺構を確認した。

調査後の処置：基礎工事は盛土内に収まるため、再立会後に復工工事を指示。



第141図 トレンチ掘削状況



第142図 トレンチ平面・断面図

### 2007-38 桜塚古墳群

調査日：平成19年（2007年）9月13日

調査場所：豊中市南桜塚1丁目56-4

調査対象面積：46.25m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下120cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第143図 トレンチ掘削状況



第144図 トレンチ断面図

### 2007-39 桜塚古墳群

調査日：平成19年（2007年）10月18日

調査場所：豊中市中桜塚3丁目135

調査対象面積：126.92m<sup>2</sup>

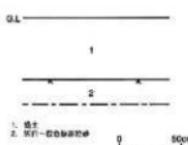
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下45~55cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第145図 トレンチ掘削状況



第146図 トレンチ断面図

### 2007-40 穂積遺跡

調査日：平成19年（2007年）10月25日

調査場所：豊中市服部西町3丁目  
1396の一部

調査対象面積：104.28m<sup>2</sup>

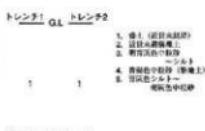
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下180cmにおいて近世末期の遺構面を検出したが、地表下250cmまで明確な遺構等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第147図 トレンチ掘削状況



第148図 トレンチ断面図

## 2007-41 桜塚古墳群

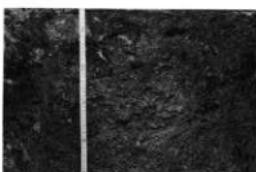
調査日：平成19年（2007年）11月1日

調査場所：豊中市南桜塚1丁目232-1  
の一部調査対象面積：73.75m<sup>2</sup>

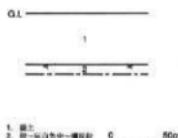
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下42cmにおいて基盤層を検出したが、古墳に伴う遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第149図 トレンチ掘削状況



第150図 トレンチ断面図

## 2007-42 穂積遺跡

調査日：平成19年（2007年）11月8日

調査場所：豊中市服部西町2丁目838-4  
の一部調査対象面積：39.84m<sup>2</sup>

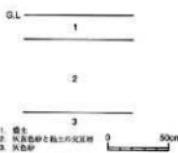
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下80cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第151図 トレンチ掘削状況



第152図 トレンチ断面図

## 2007-43 庄内遺跡

調査日：平成19年（2007年）11月8日

調査場所：豊中市庄内幸町5丁目51-6

調査対象面積：57.92m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下160cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第153図 トレンチ掘削状況



第154図 トレンチ断面図

## 2007-44 原田遺跡

調査日：平成19年（2007年）12月6日

調査場所：豊中市原田元町2丁目  
71・71-2.3の一部調査対象面積：72.56m<sup>2</sup>

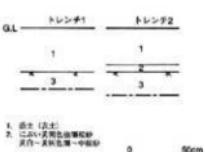
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下35cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第155図 トレンチ掘削状況



第156図 トレンチ断面図

2007-45 蛍池西遺跡

調査日：平成19年（2007年）12月13日

調査場所：舞鶴市螢池西町1丁目11-28

調査対象面積：42.23m<sup>2</sup>

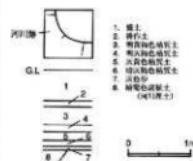
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下90cmで包含層を、地表下130cmで自然流路を検出したが、他に明確な遺構は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、覆工を指示。



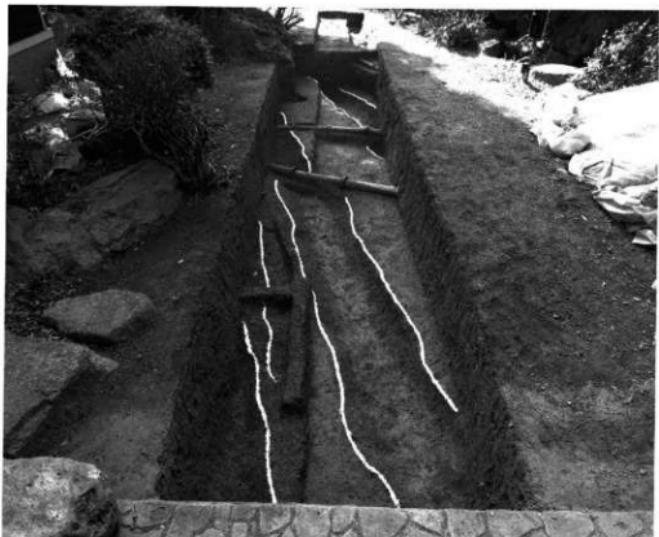
第157図 トレンチ掘削状況



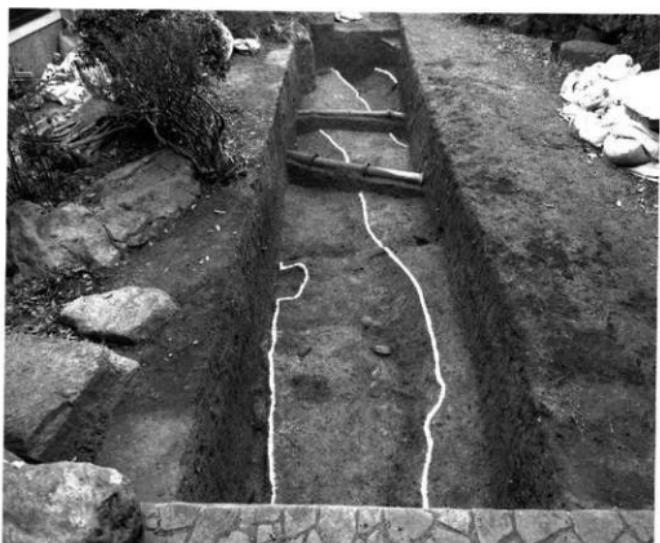
第158図 トレンチ平面・断面図

# 図 版





(1) 第1トレンチ2層上面



(2) 第1トレンチ3-1層上面



(1) 第1トレンチ3-4層上面



(2) 第1トレンチ4層上面



(3) 第1トレンチ土坑2



(1) 第2トレンチ全景



(2) 第2トレンチ集石土坑



(1) 調査区北半部 第2面 完掘状況（北西から）



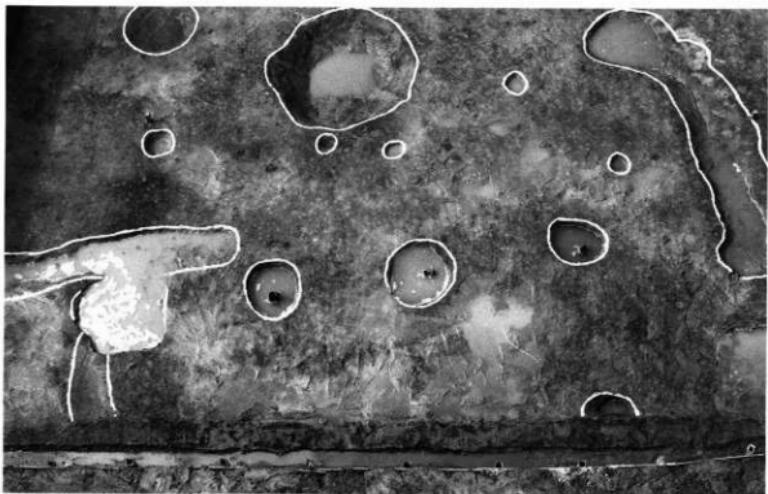
(2) 調査区南半部 第2面 完掘状況（西から）



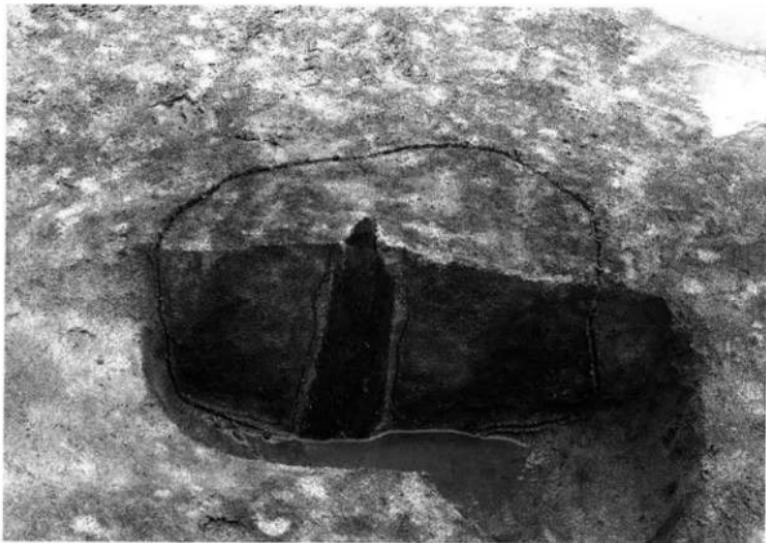
(1) 1区全景



(2) 2区全景



(1) 建物 1



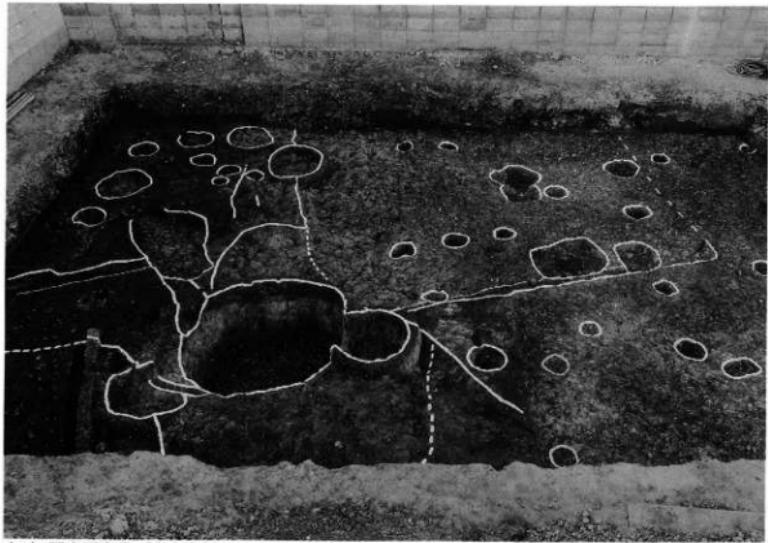
(2) 建物 1 柱穴 (SP01)



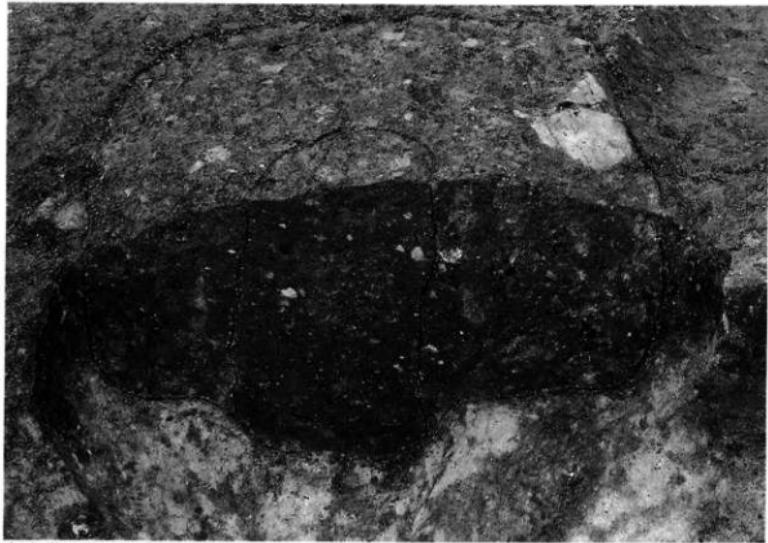
(1) 土坑3遺物出土狀況



(2) 溝3遺物出土狀況



(1) 調査区全景（南から）



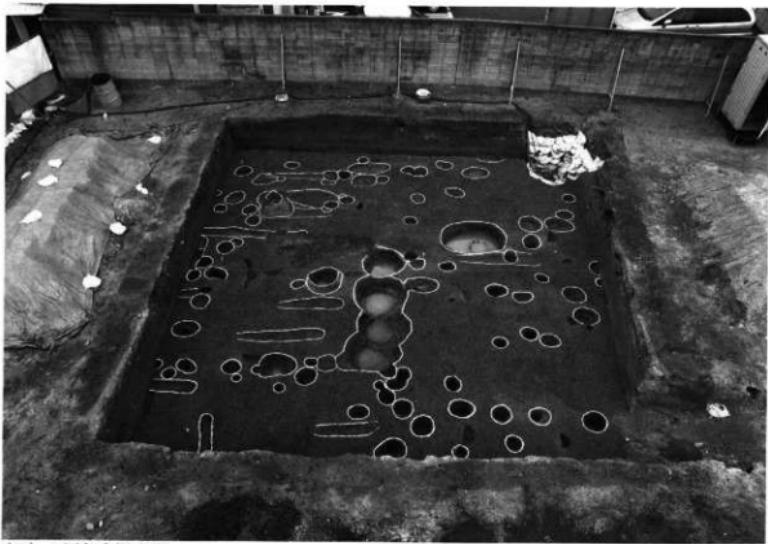
(2) 柱穴1断面（東から）



(1) 焼土検出状況（南西から）



(2) 遺物出土状況（調査区南壁）





(1) 2区包含層上面



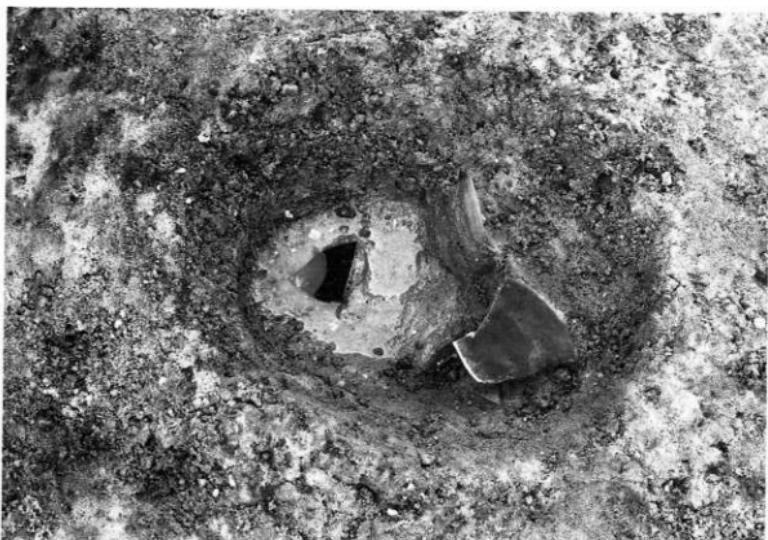
(2) 2区基盤層上面



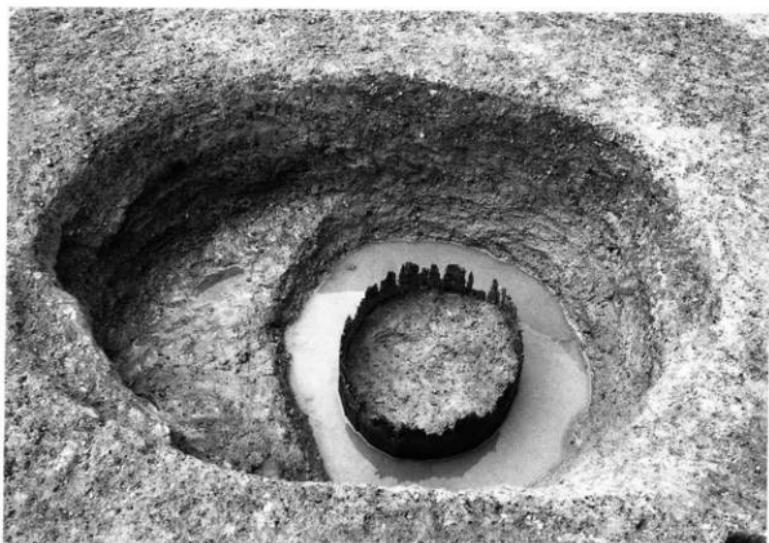
(1) SP112遺物出土狀況



(2) 土器群3遺物出土狀況



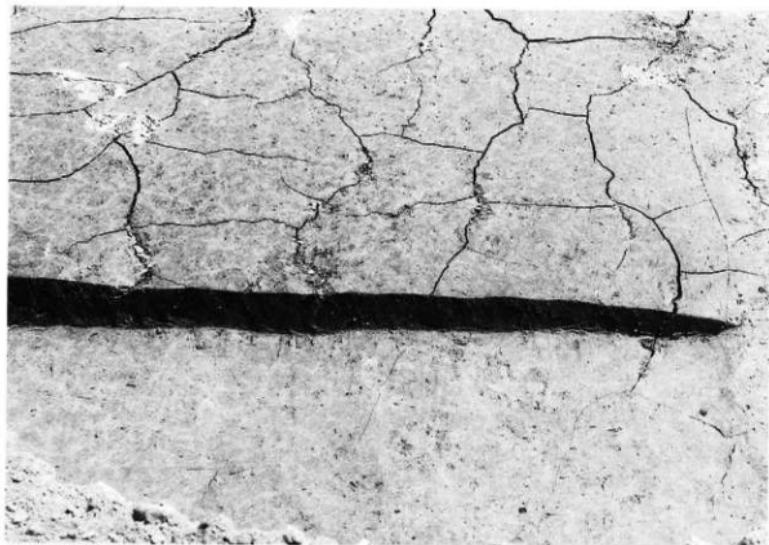
(1) SP 190遺物出土状況



(2) 井戸 1



(1) 調査区全景（南東から）



(2) 周濠埋土断面（西から）